

消 防 年 報

令 和 3 年 度 版



令和4年6月発刊

筑西広域市町村圏事務組合

消 防 本 部

は し が き

この年報は、筑西広域圏内の消防現勢及び令和3年度中の消防業務に関する諸般の統計を収録したものであり、消防の現況を関係者はもとより、広く一般に紹介するために編集したものです。

なお、消防体制については令和4年4月1日現在をもって編集したものです。これによらないものについては、当該表にそれぞれ記載した年月日により作成したものです。

この資料が、広く防災対策等への取組にご活用いただければ幸甚の至りに存じます。

令和4年6月

筑西広域市町村圏事務組合消防本部

目 次

総 務 関 係

筑西広域市町村圏域の概況-----	1
消防のあゆみ-----	2
令和3年度消防当初予算・分賦金明細-----	16
消防本部組織図-----	17
消防本部事務分掌-----	18
消防署事務分掌概要-----	20
消防分署事務分掌概要-----	22
消防本部・署所別庁舎一覧表-----	23
職員係別配置状況-----	24
階級別勤務年数-----	26
階級別年齢-----	27
消防職員教育状況-----	28

警 防 関 係 ----- 29

消防ポンプ自動車等の現勢-----	30
筑西広域市町村圏域図・消防車両等配置状況-----	31
救急・救助業務について・救急件数・事故種別傷病程度別搬送人員-----	32
年齢区分別・傷病程度別搬送人員・事故種別・程度別割合-----	33
各署別・月別救急出場件数-----	34
過去5年間の救急出場および不搬送の推移・熱中症出場状況-----	35
救助・消防隊救急支援・ドクターヘリ・ドクターカー出場状況-----	36

管 理 統 制 関 係 ----- 37

指揮隊出場状況・消防水利の現況-----	38
119番通報着信統計-----	39
緊急通報システム利用状況-----	40
気象観測状況-----	41

予 防 関 係-----	43
火災について-----	43
火災概要・主な出火原因-----	44
市別火災種別・地区別出火件数-----	45
市別火災状況-----	46
月別出火件数・時間別出火件数-----	47
危険物・危険物規制対象施設数-----	48
市別危険物施設数・危険物施設立入検査状況-----	49
防火対象物・建築確認同意事務処理件数・火災予防条例に基づく届出状況---	50
中・高層建築物状況-----	51
防火対象物数-----	52
広報活動実施状況・甲種防火管理者資格取得講習-----	53
民間防火組織等外郭団体結成状況-----	54
令和4年度筑西広域消防本部業務重点施策-----	55

消防本部・署（分署）所在地

一 目 統 計

面 積	人 口	世帯数	予 算
451.12 ㎡	191,929 人 消防職員1人当たり 644 人	78,735 戸 消防職員1人当たり 264 戸	令和3年度消防予算 3,189,370 千円 市民1人当たり 16,617 円

署所数	職員数	消防団員数	119番通報
消防本部 4 課 消防署 3 署 分署 6 分署 出張所 1 出張所	定 員 300 人 現 員 298 人 (うち女性 4人)	消防団 93 分団 団 員 1,756 人	10,674 件 (内訳) 火災 114 件 救急 7,614 件 救助 82 件 その他 2,864 件

火災件数	救急件数	救助件数	消防隊救急支援件数
火災件数 67 件 (内訳) 建物火災 31 件 車両火災 6 件 林野火災 0 件 その他の火災 30 件 【出火原因】 1位 放火(疑い) 14 件 2位 たき火 10 件 3位 火入れ 6 件 4位 たばこ 3 件 4位 配線器具 3 件 4位 ストープ 3 件	出場件数 8,643 件 搬送件数 7,714 件 搬送人員 7,772 人 【救急 事故種別】 1位 急病 5,737 件 2位 一般負傷 1,069 件 3位 転院 858 件	出場件数 159 件 【救助 事故種別】 1位 火災 61 件 2位 交通事故 45 件 3位 建物事故 35 件	出場件数 1,725 件 (PA連携) ドクターヘリ出場状況 要請件数 138 件 搬送件数 38 件 ドクターカー出場件数 要請件数 27 件 搬送件数 16 件

防火対象物	危険物施設	防火団体
5,501 対象物 (内訳) 特定用途防火対象物 1,255 対象物 非特定用途防火対象物 4,246 対象物	932 施設 (内訳) 製造所 15 施設 貯蔵所 583 施設 取扱所 334 施設	防火管理協議会 420 事業所 危険物安全協会 328 事業所 女性防火クラブ(3団体) 87 名 幼年消防クラブ(22団体) 1,009 名 少年消防クラブ(17団体) 585 名

消防車両等	水利
ポンプ車 6 台 タンク車 10 台 救助工作車 1 台 救急車 11 台	化学車 1 台 梯子車 1 台 指揮車 1 台 搬送車 3 台
	水槽車 1 台 広報車等 9 台 その他 10 台 総合計 54 台
	消火栓 4,150 箇所 (私設含む) 防火水槽 1,873 箇所 (私設含む)

(令和4年4月1日現在)

総 務 関 係

筑西広域市町村圏域の概況

筑西広域市町村圏は、茨城県の西部に位置し、県都水戸市から40～50km圏、筑波研究学園都市から20～40km圏、首都東京から70～90km圏にあり、筑西市、結城市、桜川市の3市で構成され人口は約19万人になります。交通は、筑西市を南北に通る国道294号や広域を東西に横断する国道50号があり、桜川市には北関東自動車道桜川筑西インターチェンジを有しています。鉄道は、JR水戸線、真岡鐵道真岡線、関東鉄道常総線があり、市民の生活の一部として利用されています。

広域面積451.12km²の中には豊かな自然環境と雨引観音をはじめとする優れた歴史と文化が融合した、落ち着いた生活文化空間を形成しています。

人口減少や急激な高齢化等さまざまな諸問題が取り巻き厳しい状況下ではありますが、住民の負託に応え安心で魅力のあるまちづくりを推進してまいります。

構成3市の面積・人口・世帯数

(令和4年4月1日現在)

区分 市別	面積 (km ²)	人口(人)			世帯数 (戸)
		男	女	計	
筑西市	205.30	50,765	51,144	101,909	42,413
結城市	65.76	25,487	24,938	50,425	20,872
桜川市	180.06	19,735	19,860	39,595	15,450
合 計	451.12	95,987	95,942	191,929	78,735

消防のあゆみ

当消防本部は、広域消防整備計画に基づき、昭和 48 年 4 月に 2 市 5 町 1 村をもって構成されました。平成 17 年 3 月 28 日には、下館市、関城町、明野町、協和町が合併、筑西市が誕生。さらに平成 17 年 10 月 1 日には岩瀬町、真壁町、大和村が合併して桜川市が誕生し、結城市を含めた 3 市の構成になりました。

これからも、地域の皆様方が消防行政の利益を平等に享受できるよう、また、日数多く潜在する危険から地域住民の生活を守る担い手としての責任を果たすため、防災対策の万全を期すべく日夜精進を続けてまいります。

S48. 4. 1	下館市消防本部と結城市消防本部を組合消防本部とし、下館消防署及び川島出張所、並びに結城消防署の 2 署 1 出張所をもって下館地方広域市町村圏事務組合消防本部を発足する。 既設消防力 下館消防署 消防ポンプ自動車 1 台、水槽付消防ポンプ自動車 1 台、化学消防ポンプ自動車 1 台、救急自動車 2 台、査察車 1 台、超短波無線電話基地局 1 局、移動局 6 局、携帯無線機 9 局、 (川島出張所) 消防ポンプ自動車 1 台、超短波無線電話移動局 1 局 結城消防署 消防ポンプ自動車 1 台、水槽付消防ポンプ自動車 1 台、化学消防ポンプ自動車 1 台、救急自動車 1 台、指令車 1 台、超短波無線電話基地局 1 局、移動局 6 局、携帯無線機 2 局、 職員数 下館消防署 49 名、結城消防署 36 名の計 85 名及び職員 31 名を増員して、総数 116 名となる。 初代 石島 利一 消防長就任
4. 1	関彰商事株式会社より救急自動車の寄贈を受け、下館消防署に配置する。
4. 6	岩瀬消防署及び真壁消防署を開設する。(仮庁舎) 指令車 3 台購入、消防本部、岩瀬消防署、真壁消防署に配置する。
5.29	水槽付消防ポンプ自動車 2 台購入、岩瀬消防署、真壁消防署に配置する。
8. 9	(財)日本消防協会より救急自動車の寄贈を受け、真壁消防署に配置する。
10.31	下館地方広域市町村圏事務組合を筑西広域市町村圏事務組合に名称が変更となる。 電波法の改正に伴い超短波無線電話 6 局購入、下記のとおり配置する。(更新) 結城消防署 基地局 1 局、移動局 2 局 下館消防署 移動局 3 局
11.15	超短波無線電話 9 局購入、下記のとおり配置する。 消防本部 移動局 1 局 岩瀬消防署 基地局 1 局、移動局 3 局 真壁消防署 移動局 4 局 (うち可搬型 1 局)

S49. 1.24 3.30 3.31	篠崎源氏より査察車の寄贈を受け、下館消防署に配置する。 (社)日本自動車工業より救急自動車の寄贈を受け、岩瀬消防署に配置する。 職員2名退職、総数114名となる。
S49. 4. 1 5. 7 7.10 7.17 7.29 8. 5 10. 2 10.29 10.31 S50. 3.31	職員46名採用、総数160名となる。 関城分署、明野分署及び協和分署を開設する。(仮庁舎) 指令車4台購入、下館消防署、関城分署、明野分署及び協和分署に配置する。 真壁消防署庁舎(総工費 32,111,500 円)が真壁町大字山尾793番地に完成する。 携帯無線機2局購入、岩瀬消防署及び真壁消防署に配置する。 超短波無線電話移動局4局購入、下館消防署、関城分署、明野分署及び協和分署に配置する。 岩瀬消防署庁舎(総工費 32,419,000 円)が岩瀬町大字岩瀬372番地の2に完成する。 水槽付消防ポンプ自動車4台購入、関城分署、明野分署、協和分署及び結城南出張所に配置する。 超短波無線電話移動局4局購入、関城分署、明野分署、協和分署及び結城南出張所に配置する。 普通消防ポンプ自動車2台購入、岩瀬消防署、真壁消防署に配置する。 超短波無線電話移動局2局購入、岩瀬消防署及び真壁消防署に配置する。 職員5名退職、総数155名となる。
S50. 4. 1 4. 7 4.12 7. 4 9. 5 10. 1 S51. 1.20 1.28 3. 2 3. 3 3.16 3.22 3.31	結城南出張所(総工費 32,062,000 円)が結城市大字大木1138番地に完成する。 職員21名採用、総数176名となる。 関城分署庁舎(総工費 31,342,000 円)が関城町大字上野1045番地の1に完成する。 明野分署庁舎(総工費 30,943,000 円)が明野町大字倉持1123番地の1に完成する。 協和分署庁舎(総工費 30,993,000 円)が協和町大字門井1976番地の1に完成する。 (財)日本消防協会より救急自動車の寄贈を受け、関城分署に配置する。 超短波無線電話移動局2局購入、消防本部及び関城分署に配置する。 職員22名採用、総数198名となる。 梯子付消防ポンプ自動車を購入、下館消防署に配置する。 超短波無線電話移動局1局購入、下館消防署に配置する。 株式会社森田ポンプより乗用車の寄贈を受け、消防本部に配置する。 超短波無線電話2局購入、明野分署及び協和分署に配置する。 山之内製薬株式会社より救急自動車の寄贈を受け、協和分署に配置する。 救急自動車を購入、明野分署に配置する。 職員3名退職、総数195名となる。

S51. 4. 1	職員2名採用、総数197名となる。
5. 1	職員2名採用、総数199名となる。下館消防署特別救助隊発足する。
7.22	携帯無線機5局購入、岩瀬消防署、真壁消防署、関城分署、明野分署、協和分署各1局配置する。
10. 1	職員2名採用、総数201名となる。
10.20	水槽付消防ポンプ自動車を購入、結城消防署に配置する。(更新)
S52. 1.24	(社)日本損害保険協会より救急自動車の寄贈を受け結城消防署に配置する。
1.31	職員1名退職、総数200名となる。
S52. 7. 1	職員3名採用、総数203名となる。
9.12	超短波無線電話移動局4局購入、関城分署(可搬型)明野分署(可搬型)協和分署(可搬型)及び結城消防署に配置する。
12.16	普通消防ポンプ自動車1台購入、下館消防署川島出張所に配置する。(更新)
S53. 3.31	職員2名退職、総数201名となる。
S53. 4. 1	職員3名採用、総数204名となる。
5. 1	初代 石島 利一 消防長退任、総数203名となる。
5. 2	第二代 赤羽 孝夫 消防長就任
8.31	携帯無線機4局購入、消防本部1局及び結城消防署に3局を配置する。
9.30	第二代 赤羽 孝夫 消防長退任、総数202名となる。
10. 1	第三代 濱野 正 消防長事務取扱就任
	職員2名採用、総数204名となる。
12.18	山林火災用小型動力ポンプを購入、岩瀬消防署に配置する。
S54. 3.31	職員4名退職、総数200名となる。
S54. 6.13	専用電話集録装置8局購入、岩瀬消防署3台、真壁消防署2台、関城分署、明野分署、協和分署に各1台配置する。
7.11	広報車(山林パトロール用)2台購入、岩瀬消防署及び真壁消防署に配置する。
8.18	小型動力ポンプを購入、真壁消防署に配置する。
8.20	加入電話5回線増設(岩瀬、真壁消防署及び関城、明野、協和分署に設置)
8.31	携帯無線機2局購入、結城消防署に配置する。
9. 1	職員5名採用、総数205名となる。
9.20	超短波無線電話移動局2局購入、岩瀬消防署、真壁消防署に配置する。
12. 1	職員1名採用、総数206名となる。
S55. 2.18	加入電話1回線増設、下館消防署に設置。
3.27	普通消防ポンプ自動車を購入、結城消防署に配置する。(更新)
3.31	職員3名退職、総数203名となる。
S55. 4. 1	職員1名採用、総数204名となる。
7.29	広報車を購入、下館消防署に配置する。(更新)
	指令車を購入、結城消防署に配置する。(更新)
9.20	加入電話1回線増設、結城消防署に設置。
12.20	携帯無線機6局購入、消防本部、岩瀬、真壁消防署及び関城、明野、協和分署

S56. 3.31	に各1局を配置する。 職員2名退職、総数202名となる。
S56.10.15 S57. 1.26 3.9 3.17 3.31	職員2名採用、総数204名となる。 普通消防ポンプ自動車を購入、下館消防署に配置する。(更新) 携帯無線機4局購入、下館消防署2局、結城消防署、岩瀬消防署に各1局を配置する。 (社)日本損害保険協会より救急自動車の寄贈を受け、下館消防署に配置する。 消防無線基地局非常電源を設置する。
S57. 4.5 7.26 10.1 10.22 12.24 S58. 2.16 2.23 2.28 3.4	下館市危険物安全協会より広報車の寄贈を受け、消防本部に配置する。 査察車3台購入、結城、岩瀬、真壁の各消防署に配置する。 職員5名採用、総数209名となる。 気象観測装置を下館消防署に設置する。 指令車を購入、大和分署に仮配置する。(開設準備期間) 超短波無線電話移動局4局、可搬型移動局1局を大和分署に仮配置、下館消防署1局(更新)、結城消防署1局(更新)を配置する。携帯無線機6局購入、下館消防署2局、結城消防署1局を配置、大和分署3局を仮配置する。 水槽付消防ポンプ自動車を購入、大和分署に事前配置する。 大和分署車庫(総工費31,200,000円)が大和村大字羽田1000番地に完成する。 大和分署に加入電話2回線を事前開設する。
S58. 4.1 S59. 2.1 2.22 3.31	大和分署を開設する。職員5名採用、総数214名となる。 職員3名採用、総数217名となる。 化学消防ポンプ自動車を購入、下館消防署に配置する。(更新) 職員4名退職、総数213名となる。
S59. 4.1 4.2 5.1 S60. 1.1 3.1 3.31	茨城県防災行政無線局を消防本部に設置する。 第三代 濱野 正 消防長事務取扱退任 第四代 池田 満 消防長就任、職員総数214名となる。 職員2名採用、総数216名となる。 科学万博消防署に職員2名派遣する。 科学万博消防署に職員3名派遣する。(合計5名) 職員1名退職、総数215名となる。
S60. 6.29 8.1 8.3	結城消防署庁舎(総工費225,200,000円)が結城市みどり町二丁目3番地に完成し移転する。 職員4名採用、総数219名となる。 (財)日本消防協会より広報車の寄贈を受け消防本部に配置する。 (財)日本消防協会より「筑西広域少年婦人防火委員会」に軽可搬動力消防ポンプ(D-1級富士ロビン)2台の寄贈を受け、協和町「蓮沼団地婦人防火クラブ」下館市「羽黒婦人防火クラブ」に配置する。

S60.10. 1	国際科学技術博覧会協会より普通消防ポンプ自動車（Ａ－１級トヨタ）の寄贈を受け、真壁消防署に配置する。
S61. 3.31	第四代 池田 満 消防長退任、職員３名退職、総数２１５名となる。
S61. 4. 1	第五代 肥田 猛 消防長就任、職員１名採用、総数２１６名となる。
5.23	救助艇（船外機付）を購入、結城消防署に配置する。
6. 1	職員１名採用、総数２１７名となる。
8. 5	台風１０号水害により、大規模特殊災害広域航空消防応援により東京消防庁及び横浜市消防局航空隊の応援を受ける。
8. 7	(財)日本消防協会より「筑西広域少年婦人防火委員会」に軽可搬動力消防ポンプ（Ｄ－１級トーハツ）の寄贈を受け「結城市国府町婦人防火クラブ」に配置する。
S62. 3.31	職員１名退職、総数２１６名となる。
S62. 6.29	消防指令広報車１台購入、関城分署に配置する。(更新)
8. 3	(財)日本消防協会より「筑西広域少年婦人防火委員会」に軽可搬動力消防ポンプ（Ｄ－１級シバウラ）２台の寄贈を受け、「岩瀬町飯淵・久原婦人防火クラブ」及び「関城町上野婦人防火クラブ」に配置する。
8.25	第３回茨城県幼年・少年・婦人防火大会が下館市で開催され、会員１,２００名が参加する。
9.17	水槽付消防ポンプ自動車を購入、下館消防署に配置する。(更新)
12. 1	職員１名採用、総数２１７名となる。
S63. 1.21	(社)日本自動車工業会より救急自動車の寄贈を受け、岩瀬消防署に配置する。
3. 4	救急自動車を２台購入、下館消防署、結城消防署に配置する。(更新)
S63. 7.30	(財)日本消防協会より「筑西広域少年婦人防火委員会」に軽可搬動力消防ポンプ（Ｄ－１級ラビット）２台の寄贈を受け、「下館市市野辺婦人防火クラブ」及び「関城町西保末婦人防火クラブ」に配置する。
8.30	水槽付消防ポンプ自動車を購入、岩瀬消防署に配置する。(更新)
12.27	救急自動車４台購入、真壁消防署、関城分署、明野分署、協和分署に配置する。(更新)
H1. 1.27	消防指令広報車を購入、結城消防署に配置する。(更新)
3.31	携帯無線機２局購入、結城消防署、真壁消防署に配置する。 職員１名退職、総数２１６名となる。
H1. 5.30	消防指令広報車３台購入、下館、岩瀬、真壁消防署に配置する。(更新)
7.27	携帯無線機２局購入、関城分署、明野分署に配置する。
8.30	下館消防署の放送設備を更新する。
10. 1	職員２名採用、総数２１８名となる。
10.11	水槽付消防ポンプ自動車２台購入、結城消防署、真壁消防署に配置する。(更新)
10.30	(財)日本消防協会より「筑西広域少年婦人防火委員会」に軽可搬動力消防ポンプ（Ｄ－１級トーハツ）の寄贈を受け「真壁町東山田婦人防火クラブ」に配置する。 (財)日本防火協会より防火広報車の寄贈を受け、消防本部に配置する。下館消防署の電話設備を更新する。

H2. 3. 1 3.31	(社)日本損害保険協会より救急車の寄贈を受け、下館消防署に配置する。(更新) 職員3名退職、総数215名となる。
H2. 4. 1 5.24 5.31 6.18 8. 2 8. 6 9.11	職員3名採用、総数218名となる。 電話ファクシミリを購入、下館消防署に設置する。 真壁消防署の電話設備を更新する。 消防指令広報車2台購入、明野分署、協和分署に設置する。(更新) (財)日本消防協会より「筑西広域少年婦人防火委員会」に軽可搬動力消防ポンプ(D-1級シバウラ)の寄贈を受け、「協和町蓮沼団地婦人防火クラブ」に配置する。 岩瀬消防署の無線基地局を更新する。携帯無線機2局購入、結城消防署、協和分署に設置する。 水槽付消防ポンプ自動車3台購入、関城分署、明野分署、協和分署に配置する。(更新)
H3. 3.31	職員3名退職、総数215名となる。
H3. 4. 1 5.23 6.15 6.26 12.18 12.25 H4. 1.29 3.13 3.31	職員1名採用、総数216名となる。 電話ファクシミリを購入し、結城、岩瀬、真壁消防署に設置する。 連絡車を購入し、消防本部に配置する。(更新) 査察車を購入し、下館消防署に配置する。(更新) 岩瀬消防署の電話設備を更新する。 化学消防ポンプ自動車を購入し、結城消防署に配置する。(更新) ひとり暮らし老人等緊急通報システムの開通式並びに業務を開始する。 (社)日本損害保険協会より救急車の寄贈を受け、結城消防署に配置する。(更新) (株)広沢電気より多目的電源照明車の寄贈を受け、下館消防署に配置する。 自動車電話、心電図伝送装置を購入し全救急車に配備、救急心電図伝送システムを開始する。 車載用無線機2局、携帯無線機2局を購入し、下館消防署、結城消防署に配置する。(更新) 普通消防ポンプ自動車を購入し、岩瀬消防署に配置する。(更新) 職員3名退職、総数213名となる。
H4. 4. 1 11.1 11.5 H5. 3. 3 3.31	職員5名採用、総数218名となる。 職員1名採用、総数219名となる。 普通消防ポンプ自動車を購入し、下館消防署に配置する。(更新) 水槽付消防ポンプ自動車を購入し結城消防署に配置する。(更新) 救助工作車を購入し、下館消防署に配置する。(増強) 職員6名退職、総数213名となる。
H5. 4. 1 10. 1 10.29	職員6名採用、総数219名となる。 職員2名採用、総数221名となる。 消防職員互助会及び筑西広域防火管理協議会より一部寄付を受け、マイクロバスを購入する。

H5.12.24	30メートル級梯子付消防ポンプ自動車を購入し結城消防署に配置する。 (増強)
H6. 3.31	第五代 肥田 猛 消防長退任、職員3名退職、総数217名となる。
H6. 4. 2	第六代 生井 一郎 消防長就任、職員10名採用、総数228名となる。
10. 1	職員2名採用、総数230名となる。
10.19	広報車を購入し、下館消防署に配置する。(更新)
12. 1	職員1名採用、総数231名となる。
H7. 1. 1	職員1名採用、総数232名となる。火災初期出動体制の改善を実施する。
2.17	救助工作車を購入し、結城消防署に配置する。(増強)
3.16	普通消防ポンプ自動車を購入し結城消防署に配置する。(更新)
3.20	下館消防署に無線局(基地局の全国波)を設置する。(増強)
3.30	広報車(山林パトロール用)2台購入し、岩瀬消防署及び真壁消防署に配置する。 (更新)
3.31	職員4名退職、総数228名となる。
H7. 4. 1	職員8名採用、総数236名となる。
5.12	救急救命士法(平成3年法律第36号)施行後初の救急救命士免許取得者1名となる。
7.26	広報車を購入し、消防本部、結城消防署に配置する。(増強)
10. 1	職員1名採用、総数237名となる。
11.14	救急救命士免許取得者1名、計2名となる。
12.25	高規格救急車を購入し下館消防署に配置する。(増強) 救急救命士2名配置。
H8. 3.31	職員3名退職、総数234名となる。
H8. 4. 1	職員2名採用、総数236名となる。
6.25	下館消防署・筑西広域消防本部併用庁舎建設に係る用地の代行買収委託契約を筑西広域市町村圏事務組合管理者と(財)下館市開発公社副理事長との間で締結する。
7. 1	職員3名採用、総数239名となる。
7.10	下館消防署・筑西広域消防本部併用庁舎建設用地に係る買収契約を(財)下館市開発公社と地権者5名で締結する。
8.27	下館消防署・筑西広域消防本部併用庁舎建設事業に係る設計会社選定方法について、首長会議の結果公募プロポーザル方式に決定する。
11. 5	38メートル級梯子付消防ポンプ自動車を購入し下館消防署に配置する。 (更新)
H9. 1.29	下館消防署・筑西広域消防本部併用庁舎建設事業の基本設計委託業務に係る公募型プロポーザル審査会を開催し、最適コンサルタント1社を選出する。
2. 3	救急自動車を購入し真壁消防署に配置する。(更新)
2.13	下館消防署・筑西広域消防本部併用庁舎建設工事基本設計業務に着手する。
3.22	化学防護服2着及び簡易画像探索機を購入し下館消防署に配置する。(増強)
3.27	下館消防署・筑西広域消防本部併用庁舎建設工事基本設計計画報告書が提出される。

H9. 3.31	第六代 生井 一郎 消防長退任、職員5名退職、総数233名となる。
H9. 4. 1	第七代 篠田 昭宣 消防長就任、職員5名採用、総数239名となる。
4.10	下館消防署・筑西広域消防本部併用庁舎建設工事実施設計業務に着手する。
5.19	救急救命士免許取得者1名、計3名となる。
5.20	下館消防署・筑西広域消防本部併用庁舎建設工事の地質調査業務に着手する。
9. 1	指令車を購入、大和分署に配置する。(更新)
10.24	下館消防署・筑西広域消防本部併用庁舎建設工事実施設計報告書が提出される
11.20	救急救命士免許取得者1名、計4名となる。
H10. 2. 2	9年・10年度下館消防署・筑西広域消防本部併用庁舎、建設工事、電気設備工事、機械設備工事を契約、工事に着手する。
2.27	下館消防署・筑西広域消防本部併用庁舎建設工事安全祈願祭を実施する。
3.20	普通消防ポンプ自動車を購入し下館消防署川島出張所に配置する。(更新) 高規格救急車を購入し結城消防署に配置する。(増強) 救急救命士2名配置。 救急車2台を購入し関城分署、明野分署に配置する。(更新)
3.31	職員1名退職、総数238名となる。
H10. 5.20	下館消防署・筑西広域消防本部併用庁舎訓練塔工事及び外構工事を契約する。
6.23	筑西広域消防本部消防緊急通信指令施設を契約する。
7. 1	職員8名採用、総数246名となる。
7.31	筑西広域消防本部消防緊急通信指令施設発信地表示システムを契約する。
9.30	筑西広域消防本部防災展示ホール施設工事を契約する。
10.28	水槽付消防ポンプ自動車を購入し、大和分署に配置する。(更新) 救急車を購入し、協和分署に配置する。(更新)
11.25	救急救命士免許取得者1名、計5名となる。
12.16	下館消防署・筑西広域消防本部併用庁舎備品を契約する。
H11. 3.23	筑西広域消防本部・下館消防署併用庁舎が竣工
3.31	第七代 篠田 昭宣 消防長退任、職員2名退職、総数243名となる。
H11. 4. 1	筑西広域消防本部・下館消防署新庁舎で業務を開始する。 第八代 内田 昭治 消防長就任 職員1名採用、総数244名となる。 茨城県防災航空隊へ1名派遣する。
5. 1	職員1名採用、総数245名となる。
9.12	大関消防司令補殉職、総数244名となる。
11.26	救急救命士免許取得者1名、計6名となる。
12. 6	化学消防ポンプ自動車を購入し、下館消防署に配置する。(更新) 消防ポンプ自動車を購入し、真壁消防署に配置する。(更新)
H12.3.31	職員4名退職、総数240名となる。
H12. 4. 1	職員5名採用、総数245名となる。
5.26	救急救命士免許取得者1名、計7名となる。
11.14	救急救命士免許取得者1名、計8名となる。

H12.11.21	高規格救急車を購入し、岩瀬消防署に配置する。(更新) 救急救命士2名配置。
H13. 3.31	第八代 内田 昭治 消防長退任、職員4名退職、総数240名となる。
H13. 4. 1	第九代 藤田 隆 消防長就任 職員7名採用、総数247名となる。 救急車を大和分署に配置する。(増強)
4.26	救急救命士免許取得者1名、計9名となる。
6. 8	救急救命士免許取得者1名、計10名となる。
6.27	指令車を購入し、関城分署に配置する。(更新)
10.16	クレーン付搬送車・救助艇を購入し、下館消防署に配置する。(増強)
12. 3	救急救命士免許取得者1名、計11名となる。
H14. 1.30	救急車を購入し、大和分署に配置する。(更新)
2.28	指令車を購入し、結城消防署に配置する。(更新)
3.31	第九代 藤田 隆 消防長退任、職員2名退職、総数244名となる。
H14. 4. 1	第十代 本橋 幾郎 消防長就任 職員9名採用、総数254名となる。(救命士免許取得者1名含む) 救急救命士免許取得者1名、計12名となる。 茨城県防災航空隊へ1名派遣する。
6. 6	救急救命士免許取得者1名、計13名となる。
11.26	救急救命士免許取得者1名、計14名となる。
12.20	災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車を購入、下館消防署に配置する。(更新) 小型動力ポンプ付大型水槽車を購入し、下館消防署に配置する。(増強)
H15. 3.31	職員7名退職、総数247名となる。
H15. 4. 1	職員11名採用、総数258名となる。
5. 6	救急救命士免許取得者1名、計15名となる。
10.29	指令車を購入し、岩瀬消防署に配置する。(更新) 指令車を購入し、真壁消防署に配置する。(更新)
11.13	災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車を購入し、岩瀬消防署に配置する。 (更新)
12. 9	災害対応特殊救急自動車を購入し、真壁消防署に配置する。(更新) 救急救命士免許取得者1名、計16名となる。
H16. 3.31	職員1名退職、総数257名となる。
H16. 4. 1	職員8名採用、総数265名となる。
5. 7	救急救命士免許取得者1名、計17名となる。
11. 9	災害対応特殊救急自動車を購入、下館消防署川島出張所に配置する。(更新)
11.19	救急救命士免許取得者1名、計18名となる。
12. 7	指導車を購入し、下館消防署に配置する。(更新)
12.26	職員1名退職、総数264名となる。
H17. 2. 1	職員1名採用、総数265名となる。
2.28	職員1名退職、総数264名となる。
3.28	下館市、関城町、明野町、協和町が合併、『筑西市』となる。

H17.3.31	水槽付消防ポンプ自動車を購入し、真壁消防署、結城消防署南出張所に配置する。(更新) 職員2名退職、総数262名となる。
H17.4.1 5.11 10.1 11.10 11.21 H18.3.10 3.27 3.31	職員8名採用、総数270名となる。(救命士免許取得者2名含む) 救急救命士免許取得者1名、計21名となる。 岩瀬町、真壁町、大和村が合併、『桜川市』となる。 救急救命士免許取得者1名、計22名となる。 指令車を購入し、明野分署、協和分署に配置する。(更新) 高規格救急車を購入し、下館消防署に配置する。(更新) 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、関城分署、明野分署に配置する。(更新) 職員5名退職、総数265名となる。
H18.4.1 11.6 H19.3.15 3.31	職員8名採用、総数273名となる。 職員1名退職、総数272名となる。 広報車を購入し、下館消防署に配置する。(更新) 災害対応特殊救急自動車を購入し、結城消防署に配置する。(更新) 災害対応特殊消防ポンプ自動車を購入し、岩瀬消防署に配置する。(普通ポンプ車の更新) 水槽付消防ポンプ自動車を購入し、協和分署に配置する。(更新) 第十代 本橋 幾郎 消防長退任 職員5名退職、広域事務局へ1名転出、総数266名となる。
H19.4.1 4.26 6.1 11.22 H20.1.20 3.31	第十一代 飯村 勝行 消防長就任、職員8名採用、総数274名となる。 救急救命士免許取得者1名、計23名となる。 職員1名採用、総数275名となる。 職員1名退職、総数274名となる。 職員1名退職、総数273名となる。 職員5名退職、総数268名となる。
H20.4.1 4.15 4.21 6.30 10.1 10.20 H21.3.31	消防本部組織再編 下館消防署を筑西消防署に名称変更、関城・明野・協和分署が筑西消防署の管轄分署となる。 岩瀬消防署を桜川消防署に名称変更、真壁消防署の組織を変更し真壁分署となる。真壁・大和分署が桜川消防署の管轄分署となる。 茨城県防災航空隊へ1名派遣する。 桜川消防署に北関東自動車道路供用開始に伴い救急車を配置する。(増強) 消防本部の救急車(予備車)を廃車する。 救急救命士免許取得者1名、計24名となる。 肥田猛氏より連絡車の寄贈を受け、消防本部に配置する。 消防緊急通信指令施設を高機能消防通信システムに部分更新する。 職員1名退職、総数267名となる。 第十一代 飯村 勝行 消防長退任 職員7名退職、広域事務局へ1名転出、総数259名となる。

H21.4.1	第十二代 大和田 邦一 消防長就任 職員9名採用、総数268名となる。(救命士免許取得者2名含む)
4.22	救急救命士免許取得者3名、計29名となる。
10.31	職員1名退職、総数267名となる。
12.1	高規格救急車を購入し、桜川消防署に配置する。(更新)
	災害対応特殊高規格救急車を購入し、筑西消防署明野分署に配置する。(更新)
H22.1.22	電源照明車を廃車する
3.25	指揮車を購入し、消防本部に配置する。(更新)
3.31	職員7名退職、総数260名となる。
H22.4.1	職員10名採用、総数270名となる。
4.13	救急救命士免許取得者2名、計31名となる。
H23.1.18	救助工作車(Ⅲ型)を購入し、筑西消防署に配置する。(更新)
3.28	指令車を購入し、結城消防署に配置する。(更新)
3.31	職員7名退職、総数263名となる。
H23.4.1	職員10名採用、総数273名となる。
	救急救命士免許取得者1名、計32名となる。
	茨城県立消防学校へ1名派遣する。
5.11	救急救命士免許取得者3名、計35名となる。
9.30	職員1名退職、総数272名となる。
12.1	災害対応特殊高規格救急車を購入し、結城消防署に配置する。(更新)
H24.3.8	水槽付消防ポンプ自動車を購入し筑西消防署に配置する。(更新)
3.31	職員7名退職、総数265名となる。
H24.4.1	職員10名採用、総数275名となる。
	救急救命士免許取得者2名、計37名となる。
5.10	救急救命士免許取得者2名、計39名となる。
H25.2.1	茨城消防救急無線指令センター整備推進協議会事務局へ1名出向となる。
3.7	災害対応特殊水槽付消防ポンプ車(救助資機材搭載)を購入し、結城消防署に配置する。(更新)
	高規格救急車を購入し、筑西消防署協和分署に配置する。(更新)
3.31	第十二代 大和田 邦一 消防長退任 職員17名退職、総数258名となる。
H25.4.1	第十三代 森 正雄 消防長就任 職員14名採用、総数273名となる。
	救急救命士免許取得者1名、計40名となる。
	(財)日本消防協会へ1名派遣する。
4.8	救急救命士免許取得者4名、計44名となる。
4.30	第十三代 森 正雄 消防長退任 職員1名退職、総数272名となる。
5.8	第十四代 柴 勝昭 消防長就任

H25.5.31 10.31 12.1 H26.3.31	職員1名退職、総員271名となる。 化学消防ポンプ自動車を結城消防署に配置換えする。 災害対応特殊高規格救急車を購入し、筑西消防署関城分署に配置する。(更新) 水槽付消防ポンプ車(救助資機材搭載)を購入し、桜川消防署に配置する。 職員16名退職、総数255名となる。
H26.4.1 8.1 10.1 H27.1.1 3.25 3.31	桜川消防署に特別救助隊を発足する。 職員28名採用、総数283名となる。 救急救命士免許取得者10名、計54名となる。 茨城県防災航空隊へ1名派遣する。 職員3名採用、総数286名となる。 救急救命士免許取得者3名、計57名となる。 職員1名退職、総数285名となる。 緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練茨城県実行委員会事務局に1名派遣する。 職員1名採用、総数286名となる。 救急救命士免許取得者3名、計60名となる 災害対応特殊高規格救急車を購入し、桜川消防署真壁分署に配置する。(更新) 災害対応特殊水槽付消防ポンプ車を購入し、結城消防署に配置する。(更新) 職員20名退職、総数266名となる。 救急救命士免許取得者1名退職、計59名となる。
H27.4.1 5.31 9.30 10.1 12.17 H28.2.4 3.31	消防職員定数の期限付き特例を廃止。 消防職員条例定数が300人に改定となる。 広域事務局から1名、総務課へ配属となる。 職員18名、再任用3名採用、総数288名となる。 救急救命士免許取得者2名、計61名となる。 職員1名退職、総数287名となる。 職員1名退職、総数286名となる。 職員5名採用、総数291名となる。 救急救命士免許取得者5名、総数66名となる。 災害対応特殊高規格救急車を購入し、筑西消防署明野分署に配置する。(更新) 高規格救急車を購入し、筑西消防署川島出張所に配置する。(更新) いばらき消防指令センター運用開始、5名派遣する。 第十四代 柴 勝昭 消防長退任 職員20名退職、広域事務局へ1名転出、総数270名となる。 救急救命士免許取得者1名退職、計65名となる。
H28.4.1	第十五代 水越 輝夫 消防長就任 職員22名、再任用6名採用、総数298名となる。 救急救命士免許取得者6名、総数71名となる。

H28.7.27 12.31 H29.3.9 3.31	職員1名退職、総数297名となる。 職員1名退職、総数296名となる。 災害対応特殊高規格救急車を購入し、結城消防署南出張所に配置する。(更新) 高規格救急車を購入し、桜川消防署大和分署に配置する。(更新) 職員21名退職、再任用職員6名退職、総数269名となる。
H29.4.1 9.30 10.18 10.31 12.13 H30.1.11 2.28 2.28 3.31	消防本部が、総務課、警防課、管理統制課、予防課に組織改編。 職員18名採用、再任用職員11名(短時間7名、フルタイム4名)採用、 総数298名となる。 救急救命士免許取得者5名、総数76名となる。 (公財)日本消防協会へ1名派遣する。 茨城県生活環境部防災・危機管理局 消防安全課へ1名派遣する。 赤外線カメラ付き小型無人航空機(ドローン)の運用を開始する。 職員1名退職、総数297名となる。 連絡車を購入し、消防本部に配置する。(更新) 職員1名退職、総数296名となる。 災害対応特殊梯子車を購入し、筑西消防署に配置する。(更新) 筑西広域消防高度救助隊が発足する。 筑西市布川地内に、筑西消防署川島分署建設用地を取得し登記完了する。 調査車を購入し、桜川消防署に配置する。(更新) 職員1名退職、総数295名となる。 第十五代 水越 輝夫 消防長退任 職員3名退職、再任用職員11名退職、総数281名となる。 救急救命士免許取得者1名退職、75名となる。
H30.4.1 5.16 9.30 12.20 12.31 H31.1.17 3.31	第十六代 高嶋 幹夫 消防長就任 職員16名、再任用2名(短時間2名)採用、総数299名となる。 救急救命士免許取得者4名、総数79名となる。 広域事務局へ2名派遣する。 職員1名退職、総数298名となる。 職員1名退職、総数297名となる。 災害対応特殊救急自動車を購入し、筑西消防署に配置する。(更新) 災害対応特殊消防ポンプ車を購入し、桜川消防署真壁分署に配置する。(更新) 筑西消防署川島分署新築工事を契約、工事に着手する。 職員1名退職、総数296名となる。 筑西消防署川島分署新築工事安全祈願祭を実施する。 第十六代 高嶋 幹夫 消防長退任 職員8名退職、再任用職員2名退職、総数286名となる
H31.4.1	第十七代 杉山 貞夫 消防長就任 職員9名、再任用2名採用、総数297名となる。

H31.4.1	広域事務局に1名身分移管、総数296名となる。 総務省消防庁消防大学校へ1名派遣する。 救急救命士免許取得者2名、総数81名となる。 広域事務局へ1名派遣する。
R1.6.30	職員1名退職、総数295名となる。
7.26	連絡車を購入し、消防本部に配備する（更新）
12.24	災害対応特殊救急自動車を購入し、桜川消防署に配置する。（更新）
R2.2.29	職員1名退職、総数294名となる。
2.20	災害対応特殊消防ポンプ車を購入し、筑西消防署川島出張所に配置する。（更新）
3.10	広報車を購入し、筑西消防署川島出張所に配備する。（増強）
3.31	第十七代 杉山 貞夫 消防長退任 職員5名退職、再任用2名退職、総数287名となる。
R2.4.1	第十八代 内田 昭彦 消防長就任 職員5名、再任用5名採用、総数297名となる。 茨城県立消防学校へ1名派遣する。 救急救命士免許取得者3名、総数84名となる。
7.9	筑西消防署川島分署で業務を開始する。
11.9	広報車を購入し、筑西消防署関城分署に配備する。（更新）
11.12	連絡車を購入し、筑西消防署に配備する。（更新）
R3.1.22	災害対応特殊救急車を購入し、結城消防署に配備する。（更新） 13mブーム付多目的消防ポンプ自動車を購入し、結城消防署に配備する。（はしご車と相対更新）
1.31	職員1名退職し、総数296名となる。
3.31	職員1名退職、再任用5名退職、総数290名となる。
R3.4.1	職員6名、再任用3名採用、総数299名となる。 救急救命士免許取得者4名、総数88名となる。
8.31	職員1名退職し、総数298名となる。
9.30	職員2名退職し、総数296名となる。
10.7	職員1名退職し、総数295名となる。
12.16	災害対応特殊救急自動車を購入し、協和分署に配置する。（更新）
12.16	災害対応特殊化学消防ポンプ自動車を購入し、結城消防署に配置する。（更新）
12.31	職員1名退職し、総数294名となる。
R4.2.15	搬送車を購入し、結城消防署に配置する（増強）
3.31	職員4名退職、再任用2名退職し、総数288名となる。 救急救命士免許取得者1名退職、総数87名となる。
4.1	消防職員条例定数が330名に改定となる。 職員8名、再任用2名採用、総数298名となる。 救急救命士免許取得者5名、総数92名となる。

令和3年度消防当初予算比較表

(単位：千円)

歳 入	
消防分賦金	2,727,850
(前年度)	2,711,239
組 合 債	315,700
(前年度)	555,600
繰 越 金	91,702
(前年)	68,404
県補助金	0
(前年度)	0
諸 収 入	18,161
(前年度)	18,440
使用料及び手数料	3,575
(前年度)	3,865
筑西消防署・消防本部庁舎敷地特別金賦金	32,382
(前年度)	27,582
合 計	3,189,370
(前年度)	3,385,130

(単位：千円)

歳 出	
職員給与関係経費	2,304,608
(前年度)	2,210,311
消防運営事務費	499,446
(前年度)	494,550
消防施設整備事業	147,806
(前年度)	453,876
公 債 費	236,110
(前年度)	224,993
予 備 費	1,400
(前年度)	1,400
合 計	3,189,370
(前年度)	3,385,130

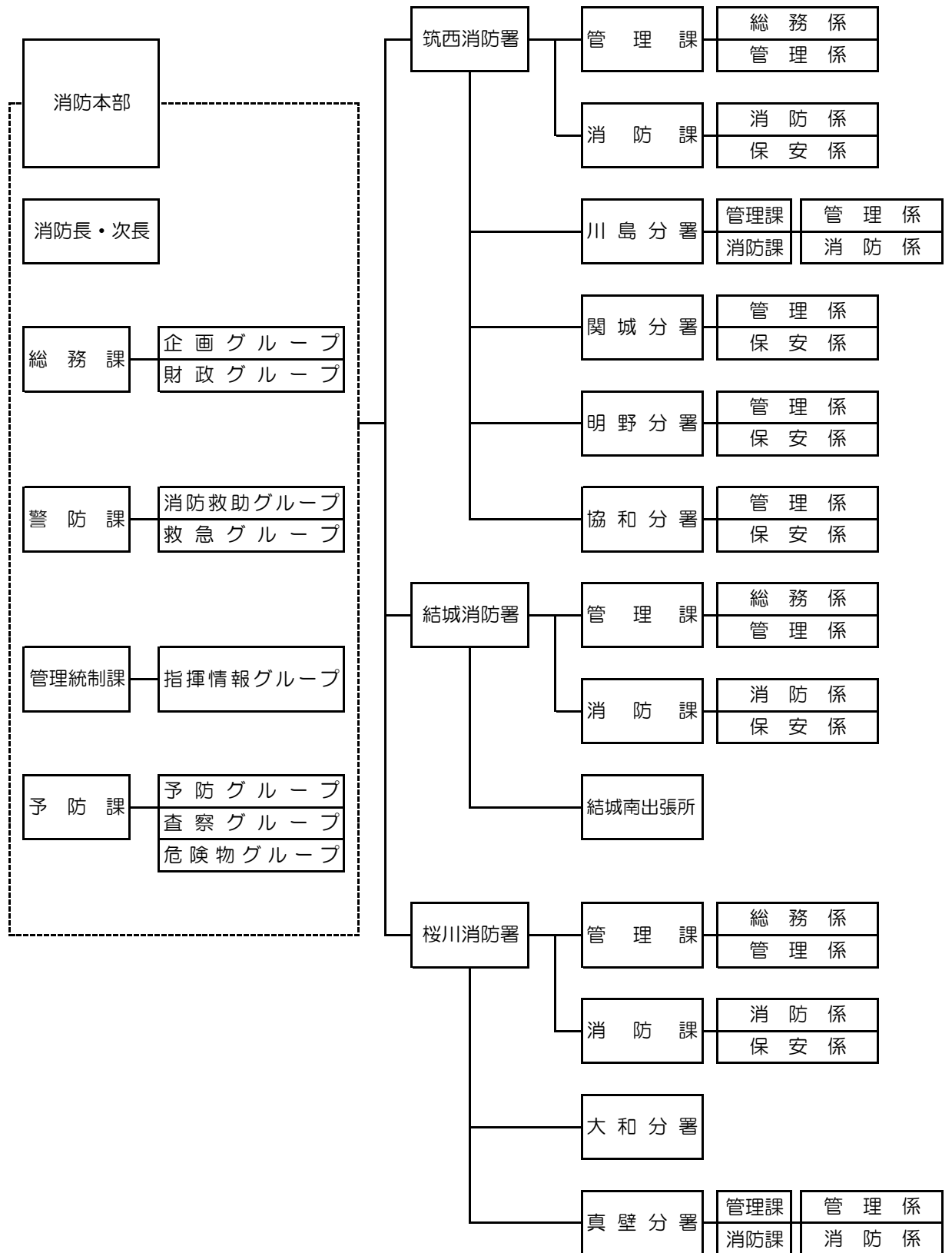
令和3年度消防分賦金明細

(単位：千円)

市 別	分 賦 金		左 の 内 訳					
			世帯割 (40%)		基準財政需要額割 (30%)		職員割 (30%)	
筑西市	1,394,664	51.1%	580,794	53.2%	409,703	50.0%	404,167	49.4%
(前年度)	1,356,875	50.0%	575,269	53.0%	422,367	51.9%	359,239	44.2%
結城市	669,439	24.6%	298,661	27.4%	193,746	23.7%	177,032	21.6%
(前年度)	676,020	24.9%	297,410	27.4%	185,435	22.8%	193,176	23.8%
桜川市	663,747	24.3%	211,685	19.4%	214,906	26.3%	237,156	29.0%
(前年度)	678,343	25.0%	211,817	19.5%	205,570	25.3%	260,957	32.1%
合 計	2,727,850	100.0%	1,091,140	100.0%	818,355	100.0%	818,355	100.0%
(前年度)	2,711,239	100.0%	1,084,495	100.0%	813,372	100.0%	813,372	100.0%

端数調整

消防本部組織図



消防本部事務分掌

総務課

- (1) 消防施設、消防用財産の建設、設置、管理に関する事。
- (2) 組織、制度及び消防関係例規に関する事。
- (3) 消防事務の企画及び管理に関する事。
- (4) 公印の管守及び文書に関する事。
- (5) 関係機関との情報連絡に関する事。
- (6) 職員の任免、昇任、昇格、配置、服務、分限、懲戒、表彰、教育、その他の人事に関する事。
- (7) 公務災害補償及び補償補てんに関する事。
- (8) 消防職員委員会に関する事。
- (9) 総務の統計に関する事。
- (10) 総務に関する調査研究及び教養に関する事。
- (11) 他の課に属しない事。
- (12) 予算及び経理に関する事。
- (13) 職員の給与に関する事。
- (14) 貸与品等に関する事。
- (15) 職員の健康管理及び福利厚生に関する事。
- (16) 職員の共済組合及び総合事務組合に関する事。

警防課

- (1) 車両、消防機器の整備及び管理に関する事。
- (2) 消防用油脂類及び消火薬剤に関する事。
- (3) 機関員の技能管理及び認定に関する事。
- (4) 救助に関する事。
- (5) 防災の事務に関する事。
- (6) 消防救助の統計に関する事。
- (7) 消防救助に関する調査研究及び教養、訓練、研修、教育に関する事。
- (8) 救急に関する事。
- (9) 筑西広域メディカルコントロール協議会に関する事。
- (10) 筑西広域管内応急手当普及啓発活動実行委員会に関する事。
- (11) 医療機関等との連携、連絡に関する事。
- (12) 救急の統計に関する事。

予防課

- (1) 火災の予防に関すること。
- (2) 予防査察及び指導に関すること。
- (3) 建築確認等の同意に関すること。
- (4) 消防用設備等の設置及び指導に関すること。
- (5) 予防の統計に関すること。
- (6) 防火管理者に関すること。
- (7) 少量危険物及び指定可燃物の火災予防措置に関すること。
- (8) 液化石油ガス等貯蔵取扱施設の保安上の措置に関すること。
- (9) 防火対象物定期点検報告制度に関すること。
- (10) 防火対象物の表示制度及び消防法令適合通知書交付に関すること。
- (11) 火災調査に関すること。
- (12) 防火思想の普及に関すること。
- (13) 広報広聴及び報道対応に関すること。
- (14) 情報公開及び個人情報全般に関すること。
- (15) 危険物取扱者に関すること。
- (16) 防火保安団体に関すること。
- (17) 予防に関する調査研究及び教養、訓練、教育に関すること。
- (18) 危険物製造所等の許認可に関すること。
- (19) 危険物製造所等の火災予防措置に関すること。

管理統制課

- (1) 災害対策本部の設置運営に関すること。
- (2) 消防相互応援及び緊急消防援助隊に関すること。
- (3) 災害活動における指揮、通信及び水利の統制に関すること。
- (4) 災害情報の収集及び伝達に関すること。
- (5) 出場隊の編成及び追加出場指令に関すること。
- (6) いばらき消防指令センターの事務に関すること。
- (7) 火災警報及び気象情報の収集並びに伝達に関すること。
- (8) 開発行為に関すること。
- (9) 地理及び水利の調査に関すること。
- (10) 防災行政無線及び市民メールに関すること。
- (11) 消防通信連絡及び災害即報に関すること。
- (12) 緊急通報システムの調整及び運営管理に関すること。
- (13) 通信機器の整備及び管理、情報共有端末装置の各種データベースに関すること。
- (14) 非常招集に関すること。
- (15) 小型無人航空機に関すること。
- (16) 消防の統計に関すること。
- (17) 指揮情報に関わる調査研究及び教養、訓練、教育に関すること。

消防署事務分掌概要

(署) 筑西・結城・桜川

管理課

総務係

- (1) 公印の管守に関すること。
- (2) 文書に関すること。
- (3) 広報及び統計に関すること。
- (4) 予算及び経理に関すること。
- (5) 消防用財産の管理に関すること。
- (6) 職員の給与、公務災害に関すること。
- (7) 職員の健康管理及び福利厚生に関すること。
- (8) 貸与品及び消耗品等に関すること。
- (9) 職員等の賞罰に関すること。
- (10) 職員の服務及び勤務に関すること。
- (11) 他の課又は係に属さないこと。

管理係

- (1) 職員の教養、訓練に関すること。
- (2) 消防用通信施設の管理に関すること。
- (3) 消防車両、消防機器及び資機材の維持、管理に関すること。
- (4) 車両の交通事故に関すること。
- (5) 消防用油脂類及び消火薬剤の管理に関すること。
- (6) 消防用ホースの保守管理に関すること。
- (7) 警防計画に関すること。
- (8) 火災等の警防に関すること。
- (9) 消防地理及び消防水利に関すること。
- (10) 救急に関すること。
- (11) 救助に関すること。
- (12) 関員の技能管理及び認定申請に関すること。
- (13) 他機関との連携に関すること。

消防課

消防係

- (1) 罹災証明等に関すること。
- (2) 火災の統計、調査、報告に関すること。
- (3) 火災予防に関すること。
- (4) 防火思想の普及に関すること。
- (5) 予防査察に関すること。
- (6) 防火管理者、危険物取扱者等の育成指導に関すること。
- (7) 消防計画及び訓練指導に関すること。
- (8) 消防用設備等及び危険物製造所等の点検、報告に関すること。
- (9) その他火災予防事務に関すること。

保安係

- (1) 建築確認等の同意に関すること。
- (2) 消防用設備等の設置指導及び検査に関すること。
- (3) 危険物製造所等の火災予防措置に関すること。
- (4) 少量危険物、指定可燃物の火災予防措置に関すること。
- (5) 圧縮アセチレンガス等貯蔵又は取扱いに関すること。
- (6) その他火災予防条例等に基づく火災予防措置に関すること。

消防分署事務分掌概要

(分署) 川島・真壁・関城・明野・協和

管理係

- (1) 文書に関すること。
- (2) 広報及び統計に関すること。
- (3) 予算及び経理に関すること。
- (4) 消防用財産の管理に関すること。
- (5) 職員の給与、公務災害に関すること。
- (6) 職員の健康管理及び福利厚生に関すること。
- (7) 貸与品及び消耗品等に関すること。
- (8) 職員の服務及び勤務に関すること。
- (9) 他の係に属さないこと。
- (10) 職員の教養、訓練に関すること。
- (11) 消防用通信施設の管理に関すること。
- (12) 消防車両、消防機器及び資機材の維持、管理に関すること。
- (13) 車両の交通事故に関すること。
- (14) 消防用油脂類及び消火薬剤の管理に関すること。
- (15) 消防用ホースの保守管理に関すること。
- (16) 警防計画に関すること。
- (17) 火災等の警防に関すること。
- (18) 消防地理及び消防水利に関すること。
- (19) 救急に関すること。
- (20) 救助に関すること。
- (21) 機関員の技能管理及び認定申請に関すること。
- (22) 他機関との連携に関すること。

消防係

- (1) 火災の統計、調査、報告に関すること。
- (2) 火災予防に関すること。
- (3) 防火思想の普及に関すること。
- (4) 予防査察に関すること。
- (5) 防火管理者、危険物取扱者等の育成指導に関すること。
- (6) 消防計画及び訓練指導に関すること。
- (7) 消防用設備等及び危険物製造所等の点検、報告に関すること。
- (8) その他火災予防事務に関すること。
- (9) 消防用設備等の設置指導及び検査に関すること。
- (10) 危険物製造所等の火災予防措置に関すること。
- (11) 少量危険物、指定可燃物の火災予防措置に関すること。
- (12) 圧縮アセチレンガス等貯蔵又は取扱いに関すること。
- (13) その他火災予防条例等に基づく火災予防措置に関すること

消防本部・署所別庁舎一覧表

署別 \ 区分	所 在 地	構 造	建築面積 (㎡)	延べ面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)
消 防 本 部 筑西消防署	筑西市直井 1076 番地 平成 11 年 3 月 23 日竣工	庁舎 RC3/O 訓練塔A RC6/O 訓練塔B S2/O 訓練塔C S2/O	2,634.42 77.66 149.74 81.91	5,413.66 341.30 289.81 155.46	14,911.00
筑西消防署 川島分署	筑西市布川 1249 番地 6 令和 2 年 7 月 8 日竣工	RC2/O	917.36	1,374.85	2,509.62
筑西消防署 関城分署	筑西市上野 1045 番地 1 昭和 50 年 4 月 7 日竣工	RC1/O	259.98	259.98	3,553.24
筑西消防署 明野分署	筑西市倉持 1123 番地 1 昭和 50 年 4 月 12 日竣工	RC1/O	250.00	250.00	743.00
筑西消防署 協和分署	筑西市門井 1976 番地 1 昭和 50 年 7 月 4 日竣工	RC1/O	260.82	260.82	1,886.52
結城消防署	結城市みどり町二丁目 3 番地 昭和 60 年 6 月 29 日竣工	ALC2/O	855.41	1,371.57	3,361.45
結城消防署 結城南出張所	結城市大字大木 1138 番地 昭和 50 年 4 月 1 日竣工	RC1/O	250.80	250.80	1,332.18
桜川消防署	桜川市西桜川二丁目 29 番地 昭和 49 年 8 月 5 日竣工	RC1/O	442.85	436.69	1,810.08
桜川消防署 真壁分署	桜川市真壁町山尾 793 番地 昭和 49 年 7 月 10 日竣工	RC1/O	435.20	426.40	1,224.54
桜川消防署 大和分署	桜川市羽田 1000 番地 プレハブ仮庁舎 ※平成 23 年 10 月から	仮庁舎 1/O 車庫 RC1/O	55.00 114.00	55.00 114.00	902.00

職員係別配置状況（１）

（令和4年4月1日 現在）

階 級 本部・署係別			計	消 正 防 監	消防監	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士
消 防 本 部	消 防 長		1	1							
	消 防 次 長		1		1						
	総 務 課	課 長	1			1					
		副参事	1			1					
		企画グループ	2				2				
		財政グループ	4				1	1	2		
		総務課付	6					1	2		3
		警 防 課	課 長	1			1				
	副参事		2			2					
	消防救助グループ		1				1				
	救急グループ		2				1		1		
	管 理 統 制 課	課 長	1			1					
		副参事	1			1					
		副参事兼指揮隊長	2			2					
		指揮情報グループ	15				7	7	1		
		指令センター派遣	5			1	1	3			
		予 防 課	課 長	1			1				
	副参事		1			1					
	危険物グループ		3				2	1			
	調査グループ		1				1				
	予防グループ		1				1				
	小 計		53	1	1	12	17	13	6		3
筑 西 消 防 署	署長		1		1						
	副署長		1			1					
	管 理 課	課 長	1				1				
		課長補佐	2				2				
		総 務 係	10					2	2	5	1
		管 理 係	14					2	4	2	6
	消 防 課	課 長	1				1				
		課長補佐	2				2				
		消 防 係	10					3	1	5	1
		保 安 係	10					2	3	4	1
	予防専従員		2				1	1			
小 計		54		1	1	7	10	10	16	9	
川 島 分 署	分 署 長		1			1					
	管 理 係	課長補佐	1				1				
		管 理 係	10					2	2	4	2
	消 防 係	課長補佐	1				1				
		消 防 係	8					2	2	4	
	小 計		21			1	2	4	4	8	2
合 計			128	1	2	14	26	27	20	24	14

職員係別配置状況（２）

（令和4年4月1日現在）

階 級		計	消 正	防 監	消防監	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士
関 城 分 署	分 署 長	1				1					
	管 理 係	7					2	2	2	1	
	消 防 係	7					2	2	2	1	
	小 計	15				1	4	4	4	2	
明 野 分 署	分 署 長	1				1					
	管 理 係	7					2	2	2	1	
	消 防 係	7					2	2	2	1	
	小 計	15				1	4	4	4	2	
協 和 分 署	分 署 長	1				1					
	管 理 係	7					2	2	3		
	消 防 係	7					2	2	1	2	
	小 計	15				1	4	4	4	2	
結 城 消 防 署	署 長	1		1							
	副署長兼南出張所長	1			1						
	管 理 課	課 長	1			1					
		課長補佐	2			2					
		総 務 係	10				3	2	2	3	
	管 理 係	管 理 係	13				2	4	4	3	
		課 長	1			1					
		課長補佐	2			2					
	消 防 課	消 防 係	12				3	2	5	2	
		保 安 係	10				2	1	5	2	
		予防専従員	1					1			
	小 計	54		1	1	6	10	10	16	10	
桜 川 消 防 署	署 長	1		1							
	副署長兼大和分署長	1			1						
	管 理 課	課 長	1			1					
		課長補佐	2			2					
		総 務 係	10				2	2	3	3	
	管 理 係	管 理 係	11				2	2	5	2	
		課 長	1			1					
		課長補佐	2			2					
	消 防 課	消 防 係	10				2	2	5	1	
		保 安 係	10				2	3	5		
		予防専従員	1					1			
	小 計	50		1	1	6	8	10	18	6	
真 壁 分 署	分 署 長	1			1						
	管 理 課	課長補佐	1			1					
		管 理 係	11				2	4	5		
	消 防 課	課長補佐	1			1					
		消 防 係	7				2		3	2	
	小 計	21			1	2	4	4	8	2	
合 計		170		2	3	17	34	36	54	24	

階級別勤務年数

(令和4年4月1日現在)

階級 勤務年数	計	消 防 正 監	消防監	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士
1年未満	8								8
1 年	6								6
2 年	5							1	4
3 年	9							2	7
4 年	14							7	7
5 年	18							15	3
6 年	19							17	2
7 年	17							17	
8 年	26						12	13	1
9 年	12						9	3	
10 年	8						6	2	
11 年	10					1	8	1	
12 年	9					4	5		
13 年	9					5	4		
14 年	1						1		
15 年	7					3	4		
16 年	8				1	7			
17 年	8				1	6	1		
18 年	7				1	6			
19 年	8				3	5			
20 年	9				8	1			
21 年	7				2	5			
22 年	6				5	1			
23 年	7			1	5	1			
24 年									
25 年	7			2	3	2			
26 年	2				1	1			
27 年	11			4	3	4			
28 年	10			2	5	3			
29 年	6			1	3	2			
30 年	4			1	1	2			
31 年	1				1				
32 年	4			2		2			
33 年									
34 年	1		1						
35 年	1						1		
36 年	3			2			1		
37 年	2			1			1		
38 年	1						1		
39 年	6		3	1		1	1		
40 年	1	1							
41 年									
42 年									
計	298	1	4	17	43	62	55	78	38

※ 再任用職員（フルタイム・短時間）を含む
26

階級別年齢

(令和4年4月1日現在)

階級 年齢	計	消 正 防 監	消防監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消防士
19歳未満	1								1
19歳	3								3
小計	4								4
20歳	4								4
21歳	4								4
22歳	5								5
23歳	9							4	5
24歳	6							2	4
25歳	13							10	3
26歳	14							10	4
27歳	17							15	2
28歳	18						3	14	1
29歳	13						4	8	1
小計	103						7	63	33
30歳	11						6	5	
31歳	14						9	4	1
32歳	8						7	1	
33歳	12						9	3	
34歳	9					5	2	2	
35歳	9					5	4		
36歳	2					1	1		
37歳	7					4	3		
38歳	8				1	5	2		
39歳	9					9			
小計	89				1	29	43	15	1
40歳	7				2	5			
41歳	7				3	4			
42歳	9				5	4			
43歳	7				6	1			
44歳	6				5	1			
45歳	9				5	4			
46歳	9				5	4			
47歳	5				4	1			
48歳	9				6	3			
49歳	8			6	1	1			
小計	76			6	42	28			
50歳	7			5		2			
51歳									
52歳	1					1			
53歳	1			1					
54歳	3			1		1	1		
55歳	1			1					
56歳	3			2			1		
57歳	1		1						
58歳	3			1		1	1		
59歳	4	1	3						
小計	24	1	4	11		5	3		
60歳	2						2		
61歳									
62歳									
小計	2						2		
合計	298	1	4	17	43	62	55	78	38

※再任用職員（フルタイム・短時間）を含む

消防職員教育状況

令和3年度

種 別			人員・階級	受講 人員	消防 司令 以上	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士
合 計				51	3	14	15	9	10
消防 大学校	幹 部 科			1	1				
	査 察 業 務 マ ネ ジ メ ン ト コ ー ス			1	1				
救命士 研 修	東 京	救 命 士 養 成 研 修		1				1	
消防学校	初任教育	初 任 科		6					6
	専科教育	救 急 科		6				3	3
		救 助 科		3			3		
		火 災 調 査 科		2		2			
		予 防 査 察 科		3			2	1	
		特 殊 災 害 科		3		2	1		
		警 防 科		3		2	1		
	特別教育	水 難 救 助 課 程		1				1	
その他 (各種)	潜 水 士			2				1	1
	小 型 船 舶 免 許 取 得 講 習 会			2			1	1	
	玉 掛 け 技 能 講 習			2			1	1	
	小型移動式クレーン運転技能講習			2			2		
	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習			2		1	1		
	フルハーネス型墜落防止用器具			2	1	1			
	全 国 消 防 救 助 シ ン ポ ジ ウ ム			2			2		
	消防・救急緊急自動車運転技能者課程			2		1	1		
	主 任 無 線 従 事 者			2		2			
	日 本 ド ロ ー ン 協 会 U A V 3 級 操 縦 士			2		2			
	ド ロ ー ン 運 用 ア ド バ イ ザ ー			1		1			

警 防 関 係

平成29年12月に筑西消防署に配備されているはしご車を更新させ、併せて筑西消防署の特別救助隊を筑西広域消防高度救助隊として発足させました。

現場活動では、火災、交通、水難、機械等の事故をはじめ、自然災害や特殊災害など多岐にわたる災害があり、安全、確実かつ迅速な対応が要求されることから、警防、救急及び救助の各部門において警防活動体制の充実強化を目指しています。

また救急業務において指導救命士を中心とした教育訓練体制の充実を図り、救急救命士に限らず、救急隊や連携して活動する消防隊員も高度な処置を理解したうえで活動することにより、現場活動の標準化に繋がっています。医学的観点から救急救命士を含む救急隊員の行う応急処置の指導、検証体制の構築、更には消防機関と医療機関との連携の強化を目指し、圏域住民の期待と信頼に答えられるように努めてまいります。

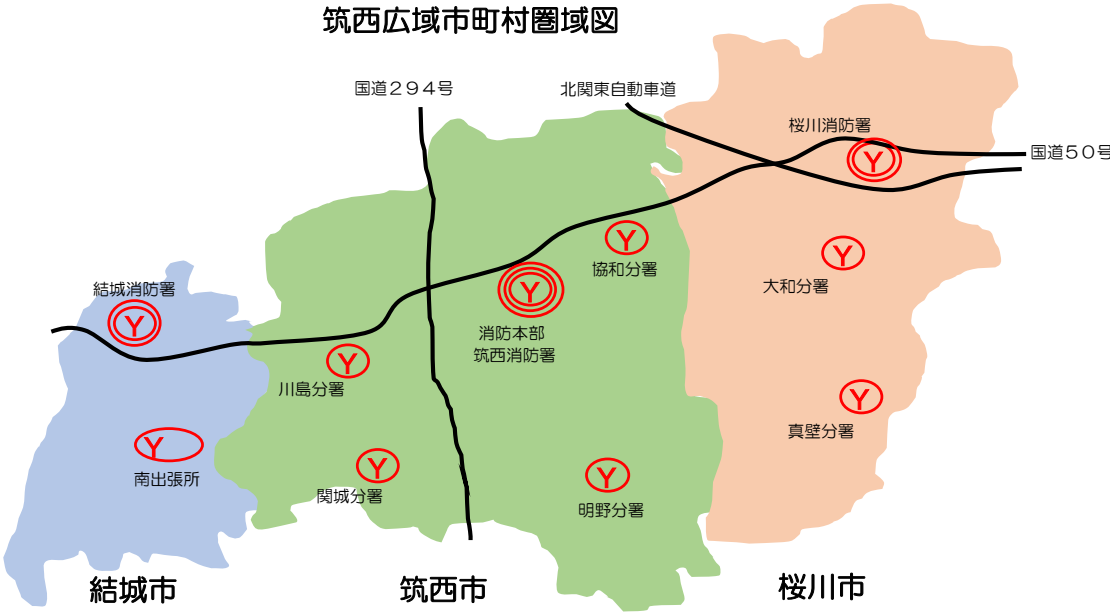
救急件数の減少については、全体的に新型コロナウイルス感染症の影響を受けているため、例年にはない活動状況にあります。

消防ポンプ自動車等の現勢

(令和4年4月1日現在)

所属	車 別	機 械 区 分		排気量 (cc)	車名	配置年月	備 考
		種別	型式				
消防本部	指 揮 車	普通乗用車	CBF-TRH226K	2,693	トヨタ	H22.3	
	水 槽 付 ポンプ車	1-A型A2級	KC-FD1JEBA改	7,960	日 野	H10.10	積載水1,500ℓ
	救 急 車	高規格	CBF-TRH226S	2,690	トヨタ	H25.2	R3.12 旧協和救急車配置換え
	広報車(デリカ)	普通乗用車	DBA-CV5W	2,350	三 菱	H26.12	
	火災原因調査車	普通乗用車	DBF-VM20	1,590	日 産	H29.1	
	連絡車(プリウス)	普通乗用車	DAA-ZVW3.0	1,790	トヨタ	H22.2	
	連絡車(ソリオ)	小型乗用車	DBA-MA26S	1,240	スズキ	H28.10	
	連絡車(ラクティス)	小型乗用車	DBA-NSP120	1,320	トヨタ	H29.12	
	連絡車(セレナ)	普通乗用車	UA-TNC24	1,990	日 産	H14.6	
	連絡車(キャラバン)	10人乗ワゴン車	CBA-KS2E26	2,480	日 産	R1.7	
	マイクロバス	キャブカー	U-HDB51	4,160	トヨタ	H5.10	
城西消防署	普通ポンプ車	CD1-A2級	SKG-XZU685M	4,000	日 野	H24.3	CAFS搭載・積載水600ℓ
	水槽付ポンプ車	1-A型A2級	KK-FD1JEDA改	7,960	日 野	H14.12	積載水1,500ℓ
	救助工作車	Ⅲ型	BDG-GX7JGWA改	6,400	日 野	H23.1	高度救助資機材一式
	梯子車	30m級	2DG-PR1APJF	8,860	日 野	H29.11	先端屈折式
	水 槽 車	Ⅱ型小型ポンプ付	KL-FS4FRHA	20,780	日 野	H14.12	積載水9,900ℓ
	搬 送 車	普通トラック	KK-XZU421	4,890	トヨタ	H13.10	2.9tフルソ付
	救 急 車	高規格	CBF-TRH226S	2,690	トヨタ	H30.12	
	広 報 車	普通ワイドバン	DBF-VY12	1,490	日 産	H29.1	
	連絡車(ワンクロード)	ステーションワゴン	UA-WFY11	1,490	日 産	H16.11	
川島分署	普通ポンプ車	CD1-A2級	2KG-XZU685M	4,000	日 野	R2.2	CAFS搭載・積載水600ℓ
	救 急 車	高規格	CBF-TRH226S	2,690	トヨタ	H27.12	
	広 報 車	普通ワイドバン	DBF-VZNY12	1,590	日 産	R2.3	
関城分署	水槽付ポンプ車	1-A型A2級	ADG-FD7JEWAA改	6,400	日 野	H18.3	積載水1,500ℓ
	救 急 車	高規格	CBF-TRH226S	2,690	トヨタ	H25.12	
	広 報 車	普通ワイドバン	DBF-VY12	1,490	日 産	R2.11	
明野分署	水槽付ポンプ車	1-A型A2級	ADG-FD7JEWAA改	6,400	日 野	H18.3	積載水1,500ℓ
	救 急 車	高規格	CBF-TRH226S	2,690	トヨタ	H27.12	
	広 報 車	普通ワイドバン	UA-WFY11	1,490	日 産	H17.11	
協和分署	水槽付ポンプ車	1-A型A2級	ADG-FD7JEWAA改	6,400	日 野	H19.3	積載水1,500ℓ
	救 急 車	高規格	3BF-TRH226S	2,690	トヨタ	R3.12	
	広 報 車	普通ワイドバン	UA-WFY11	1,490	日 産	H17.11	
結城消防署	普通ポンプ車	CD1-A2級	TKG-XZU685M	4,000	日 野	H27.3	CAFS搭載・積載水600ℓ
	救助資機材搭載型水槽付ポンプ車	1-A型A2級	SDG-GX7JGAA改	6,400	日 野	H25.2	CAFS搭載・積載水1,500ℓ 救助資機材搭載
	化学車	Ⅱ型-A2級	2DG-FE2ABA	5,120	日 野	R3.12	消火薬剤500ℓ・積載水1,500ℓ
	多目的消防ポンプ車	MVF13	2DC-FE2ABA	5,120	日 野	R3.1	13mブーム付・CAFS搭載 積載水900ℓ
	救 急 車	高規格	3BF-TRH226S	2,690	トヨタ	R3.1	
	搬 送 車	特殊バン	2KG-XZU775	4,000	トヨタ	R4.2	
	搬 送 車	普通貨物バン	KG-SR8F23	3,150	日 産	H14.2	
	広 報 車	普通ワイドバン	DBA-NZE141G	1,490	トヨタ	H23.3	
南出張所	水槽付ポンプ車	1-A型A2級	PB-FD7JEFA改	6,400	日 野	H17.3	積載水1,500ℓ
	救 急 車	高規格	CBF-TRH226S	2,690	トヨタ	H29.3	
桜川消防署	普通ポンプ車	CD1-A2級	BDG-XZU378M	4,000	日 野	H19.3	積載水600ℓ
	救助資機材搭載型水槽付ポンプ車	1-A型A2級	SDG-GX7JGAA改	6,400	日 野	H25.12	CAFS搭載・積載水1,500ℓ 救助資機材搭載
	救 急 車	高規格	CBF-TRH226S	2,690	トヨタ	R1.12	
	連絡車	小型貨物自動車	GA-YX78V	1,990	トヨタ	R4.4	
	火災調査車	普通乗用車	DBA-SJ5	1,990	スバル	H30.2	山林火災用
真壁分署	普通ポンプ車	CD1-A2級	TKG-XZU085M	4,000	日 野	H30.11	CAFS搭載・積載水600ℓ
	水槽付ポンプ車	1-A型A2級	PB-FD7JEFA改	6,400	日 野	H17.3	積載水1,500ℓ
	救 急 車	高規格	CBF-TRH226S	2,690	トヨタ	H27.3	
	広 報 車	普通ワイドバン	5BF-VY12	1,490	日 産	R3.10	
大和分署	水槽付ポンプ車	1-A型A2級	KK-FD1JEFA改	7,960	日 野	H15.11	積載水1,500ℓ
	救 急 車	高規格	CBF-TRH226S	2,690	トヨタ	H29.2	

筑西広域市町村圏域図



消防車両等配置状況

(令和4年4月1日現在)

車両別 署所別	ポンプ車	ポン槽付車	梯子車	化学車	工救作車助	救急車	水槽車	搬送車	指揮車	広報車	その他	計
消防本部		1				1			1	※1	7	11
筑西消防署	1	1	※1		※1	※1	1	1		1	2	10
川島分署	※1					1				1		3
関城分署		1				1				1		3
明野分署		1				1				1		3
協和分署		1				※1				1		3
結城消防署	2(※1)	1		※1		1		2(※1)		1		8
南出張所		1				※1						2
桜川消防署	1	1				※1					2	5
真壁分署	※1	1				1				1		4
大和分署		1				1						2
合 計	6	10	1	1	1	11	1	3	1	8	11	54

※は緊急消防援助隊登録車両

救急・救助業務について

私達の生活の中で発生する様々な事故に対応するのが救急、救助業務です。小さい怪我から生命にかかわる大事故まで、その内容は多種多様にわたります。

令和3年度中の広域圏内の救急活動状況を見ると、救急隊の出場件数は8,643件です。搬送人員については7,772人に上ります。これは1日あたり23.7件救急車が出場していることになります。

救急出場における救急隊の出場件数を事故種別で見ると、急病が一番多く5,737件で全体の67%を占めています。次いで、一般負傷が1,069件で全体の12%、転院搬送が858件で10%となっています。また、出場件数における不搬送の割合は全体の10%となります。

令和3年度中の救助出場状況は159件に上り、事故種別で見ると、火災が61件、交通事故が45件、建物事故が35件となっています。

広域圏内救急件数

(令和3年度)

事故種別 区分	計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				不搬送
												転院搬送	医師搬送	資材搬送	その他	
出場件数	8,643	36		4	630	87	11	1,069	22	82	5,737	858			107	929
搬送件数	7,714	11		1	575	82	9	995	14	52	5,133	841			1	
搬送人員	7,772	11		1	625	82	9	998	14	52	5,137	841			2	

事故種別・傷病程度別搬送人員

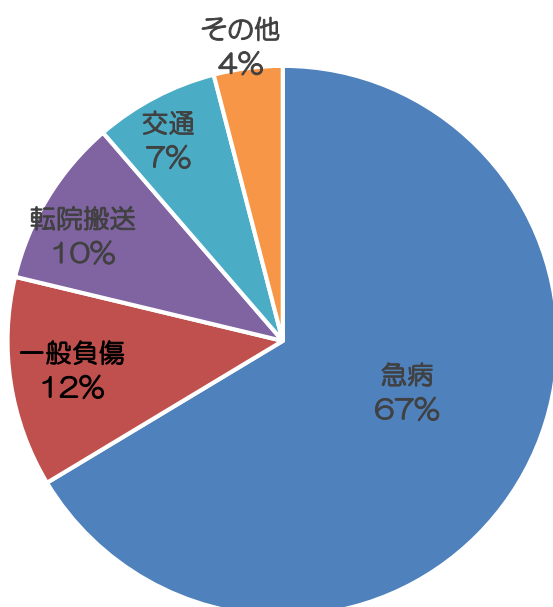
年齢区分 傷病程度	計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
死亡	166				3	1		7		8	144	3
重症	862	3			27	6		67		8	574	177
中等症	3,748	2		1	124	41	4	439	3	25	2,516	593
軽症	2,996	6			471	34	5	485	11	11	1,903	70
合計	7,772	11		1	625	82	9	998	14	52	5,137	843

年齢区分別・傷病程度別搬送人員

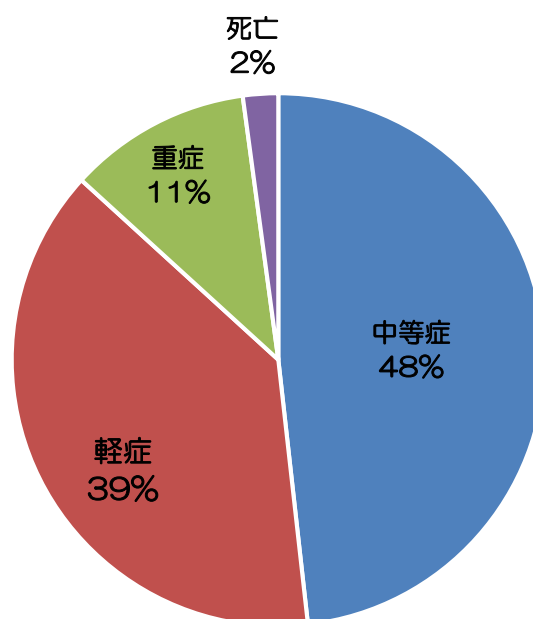
(令和3年度)

年齢区分 傷病程度	計	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者
		生後28日以内	29日～7歳未満	7～18歳未満	18～65歳未満	65歳以上
死亡	166			2	20	144
重症	862	1	1	2	212	646
中等症	3,748	23	44	74	899	2,708
軽症	2,996	15	218	165	1,214	1,384
合計	7,772	39	263	243	2,345	4,882

事故種別割合



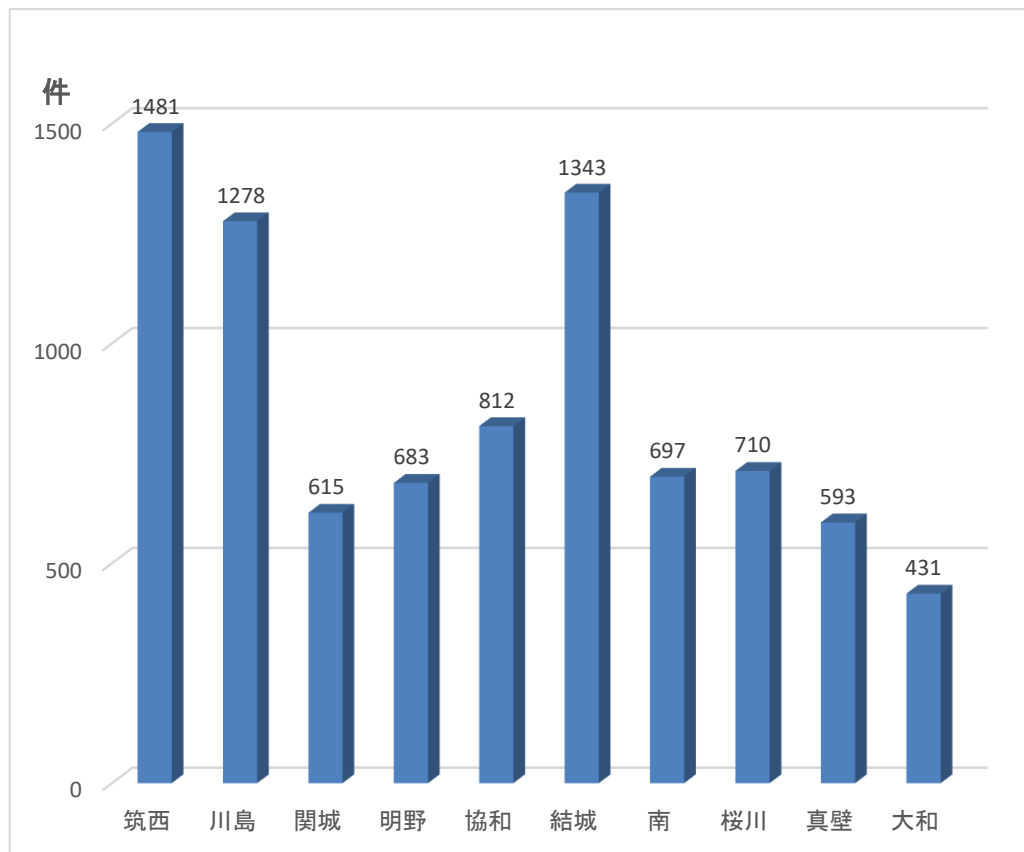
搬送程度別割合



各署別・月別救急出場件数

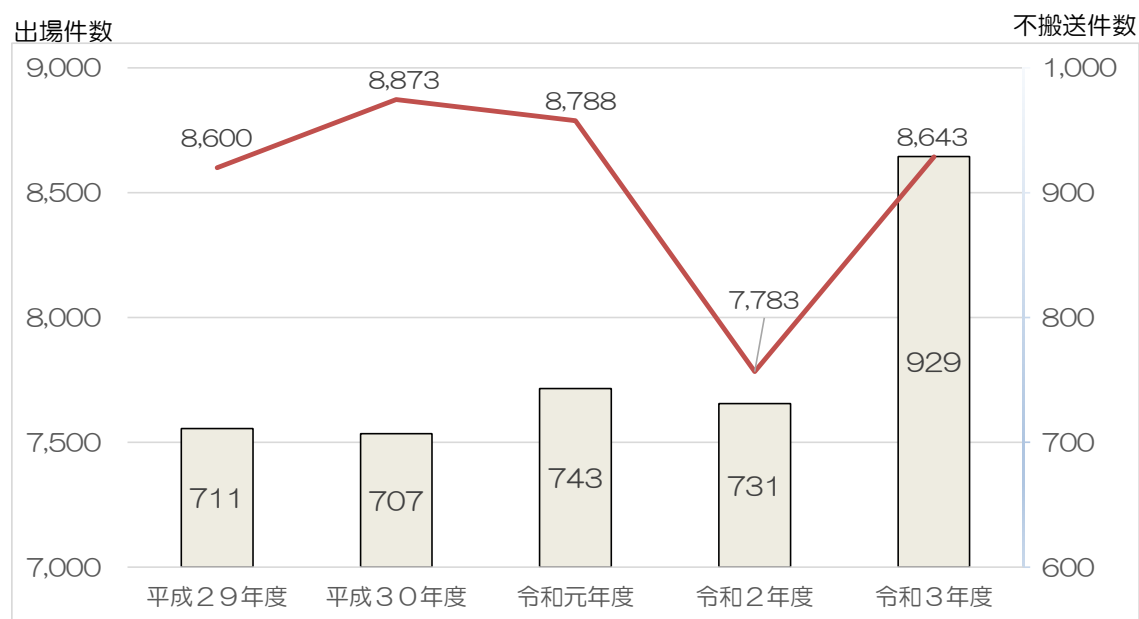
(令和3年度)

署別 月別	計	筑西	川島	関城	明野	協和	結城	南	桜川	真壁	大和
4月	687	113	91	52	42	75	113	55	56	52	38
5月	634	109	105	43	47	60	93	55	58	39	25
6月	637	119	87	51	43	50	116	60	51	38	22
7月	777	146	113	43	68	73	118	54	59	58	45
8月	756	128	112	58	71	77	104	63	58	53	32
9月	671	127	99	41	47	62	105	55	50	50	35
10月	692	124	105	43	49	60	109	62	51	52	37
11月	719	126	97	56	61	66	98	53	63	52	47
12月	818	142	137	54	56	78	130	62	66	57	36
1月	838	128	126	62	80	77	127	66	77	62	33
2月	706	107	98	60	62	61	124	59	59	35	41
3月	708	112	108	52	57	73	106	53	62	45	40
合計	8,643	1,481	1,278	615	683	812	1,343	697	710	593	431



過去5年間の救急出場および不搬送の推移

事故種別 年度別		合 計	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	不 搬 送
平成 29年	出場件数	8,600	17		10	855	97	34	1,096	40	84	5,432	935	711
	搬送人員	8,017	11		3	906	95	34	1,037	31	56	5,007	837	
平成 30年	出場件数	8,873	17		8	730	129	34	1,175	48	68	5,674	990	707
	搬送人員	8,252	11		4	753	128	33	1,105	33	40	5,241	904	
令和 元年	出場件数	8,788	15		5	711	107	29	1,191	43	64	5,631	992	743
	搬送人員	8,130	12		1	714	103	29	1,125	28	36	5,193	889	
令和 2年	出場件数	7,783	35		5	642	83	13	1,052	33	77	4,932	911	731
	搬送人員	7,115	8		2	638	79	12	982	27	55	4,501	811	
令和 3年	出場件数	8,643	36		4	630	87	11	1,069	22	82	5,737	965	929
	搬送人員	7,772	11		1	625	82	9	998	14	52	5,137	843	



熱中症出場状況

(令和3年5月～10月)

区 分	月	合計	5月	6月	7月	8月	9月	10月
出場件数		103	2	11	43	45	1	1

救助出場状況

(令和3年度)

事故種別 月	月 合 計	火 災 (要救助者有 り)	交 通 事 故	水 難 事 故	機 械 事 故	建 物 事 故	そ の 他 の 事 故
4月	16	6	5			4	1
5月	18	3	5	2		5	3
6月	10	8	1			1	
7月	8	1	1	1	1	3	1
8月	11	7	2			2	
9月	15	6	5	1		2	1
10月	9	5	2			2	
11月	8	1	3			4	
12月	16	8	4	1		3	
令和4年 1月	21	6	10		1	4	
2月	8	1	4				3
3月	19	9	3			5	2
合 計	159	61	45	5	2	35	11

消防隊救急支援（P A連携）出場状況

(令和3年度)

事故種別 区 分	合 計	C P A	搬出困難	その他の支援	
				加 害	交通事故 その他
出場件数	1,725	1,198	323	8	196

Dr.ヘリ・Dr.カー 出場状況

(令和3年度)

事故種別 区 分	合 計	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他
Dr. ヘリ	要請件数	138	2		1	13	17		13	1	2	89
	搬送件数	38	1			5	8		6		1	17
Dr. カー	要請件数	27				2	3		2			20
	搬送件数	16				2	3		1			10

管 理 統 制 関 係

管理統制課では、災害現場の活動統制を行う指揮グループと災害情報等の収集・管理を行う情報グループが相互に連携し、最新の情報システムを活用し、防火対象物情報、危険物施設情報、水利情報、救急医療情報、その他の現場活動に必要な支援情報を的確に伝え、より高度で効率・効果的な圏域住民へのサービスの提供と、災害による被害の軽減、救命率の向上をめざします。

指揮隊出場状況

(令和3年度)

種別 市別	火災				救助	救急 支援	その 他	ドクター ヘリ支援	合 計
	建物	車両	林野	その他					
筑西市	34	5		32	38	1	3	47	160
結城市	16	3		10	29	1		25	84
桜川市	10	1		18	24	3		32	88
管 外		1			2				3
合 計	60	10		60	93	5	3	104	335

消防水利の現況

令和4年4月1日現在

種別 市別	計	消火栓		防火水槽					プ ール	その 他の 水利	基 準 数	充 足 率
				1 0 0m³	4 0m³		2 0m³					
		公設	私設	公設	公設	私設	公設	私設				
筑西市	3,328	2,267	1	5	745	126	156	6	20	2	2,823	118%
結城市	1,378	1,011	18	2	198	86	40	9	14		1,174	117%
桜川市	1,421	851	2	8	308	54	123		14	61	1,451	98%
合計	6,127	4,129	21	15	1,251	266	319	15	48	63	5,448	112%



119番通報着信統計

(令和3年度)

	火 災	救 急	救 助	そ の 他 災 害	同 報	間 違 い	いた ず ら	通 試 報 訓 練 ・	そ の 他	問 合 せ 等	他 本 部 転 送	合 計
4月	14	613	10	5	47	37	1	46	34	49	4	860
5月	6	556	14	21	38	31	2	21	41	62	10	802
6月	7	559	1	24	36	45	2	32	35	61	5	807
7月	4	675	6	28	24	39	1	26	53	99	5	960
8月	9	667	4	22	38	45	3	7	53	99	12	959
9月	7	588	6	15	32	28	7	33	42	54	4	816
10月	10	614	2	17	35	32	1	41	28	55	9	844
11月	4	636	5	18	23	36	2	25	37	49	13	848
12月	12	718	8	15	55	38	1	23	45	63	6	984
1月	11	728	12	23	60	44		12	37	79	5	1,011
2月	7	636	7	30	32	27		16	42	51	12	860
3月	23	624	7	35	37	40	2	43	47	59	6	923
合計	114	7,614	82	253	457	442	22	325	494	780	91	10,674
月平均	10	635	7	21	38	37	2	27	41	65	8	890

※1日あたり約29件の着信

(いばらき消防指令センター提供)



緊急通報システム利用状況

(令和3年度)

市 別 (設置件)		筑西市 521	結城市 282	桜川市 214	合 計 1,017
月 別	緊急出場	3	2		5
	誤報	5	3	1	9
4 月	その他相談等	22	1		23
	緊急出場	7	2	2	11
	誤報	9	6	2	17
5 月	その他相談等	2		1	3
	緊急出場	3	7	4	14
	誤報	9	11	3	23
6 月	その他相談等	5	9	6	20
	緊急出場	8	2	3	13
	誤報	23	19	11	53
7 月	その他相談等	2	2	70	74
	緊急出場	3	4	4	11
	誤報	13	22	7	42
8 月	その他相談等	185	4		189
	緊急出場	3	6	4	13
	誤報	16	14	4	34
9 月	その他相談等	437	2	1	440
	緊急出場	6		1	7
	誤報	14	11	3	28
10月	その他相談等	415	28	1	444
	緊急出場	2	1	5	8
	誤報	17	2	1	20
11月	その他相談等	13	404	43	460
	緊急出場	5	2	3	10
	誤報	5	10	1	16
12月	その他相談等	31	343	3	377
	緊急出場	6	3	1	10
	誤報	11	3	1	15
1 月	その他相談等	9	42	344	395
	緊急出場	3	3	2	8
	誤報	8	6	4	18
2 月	その他相談等	14	8	89	111
	緊急出場	2	3	4	9
	誤報	2	11	1	14
3 月	その他相談等	10	4	15	29
	緊急出場	51	35	33	119
	誤報	132	118	39	289
合 計	その他相談等	1,145	847	573	2,565

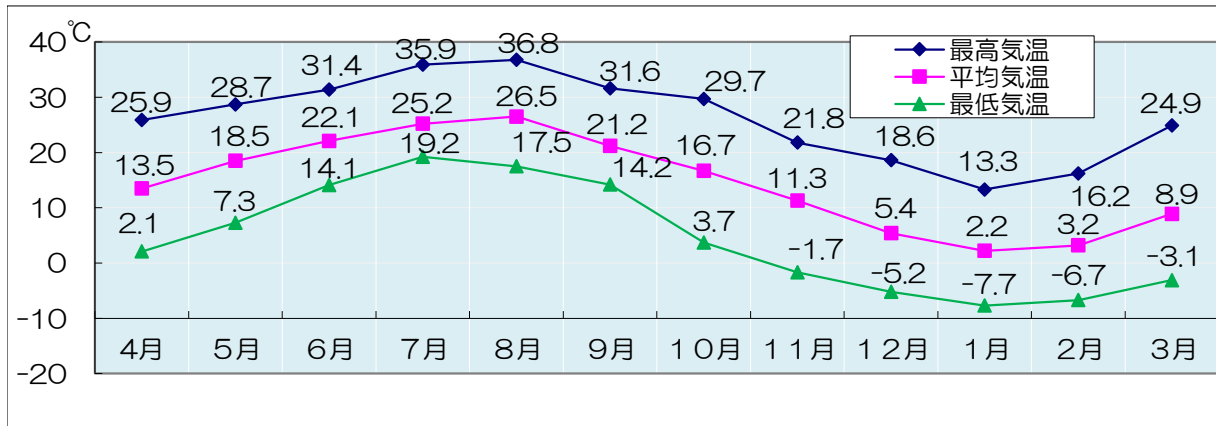
※その他相談等にはシステム保守点検通報件数が含まれます。

気象観測状況

観測地点は筑西市直井1076番地（標高41m設置）
筑西広域市町村圏事務組合消防本部の気象観測装置で観測したもの

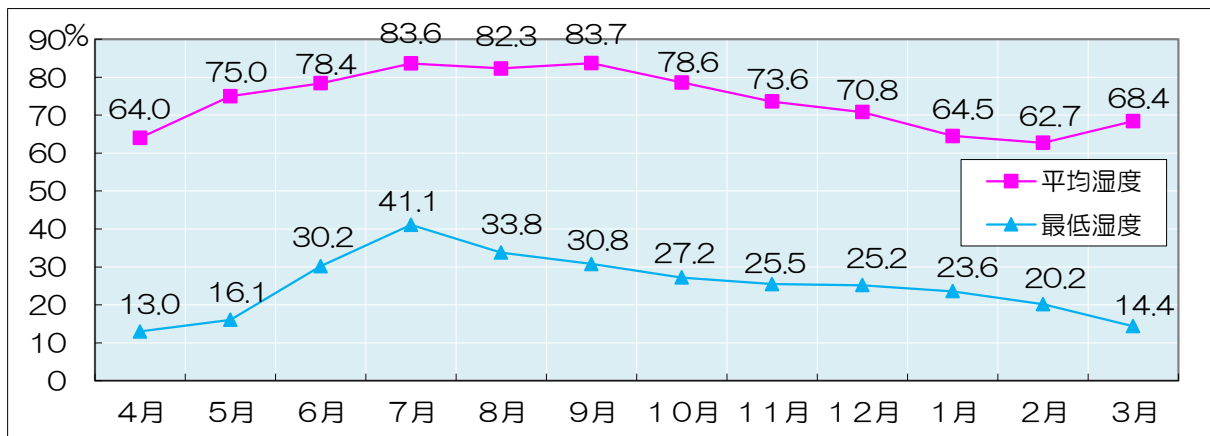
気温

（令和3年度）



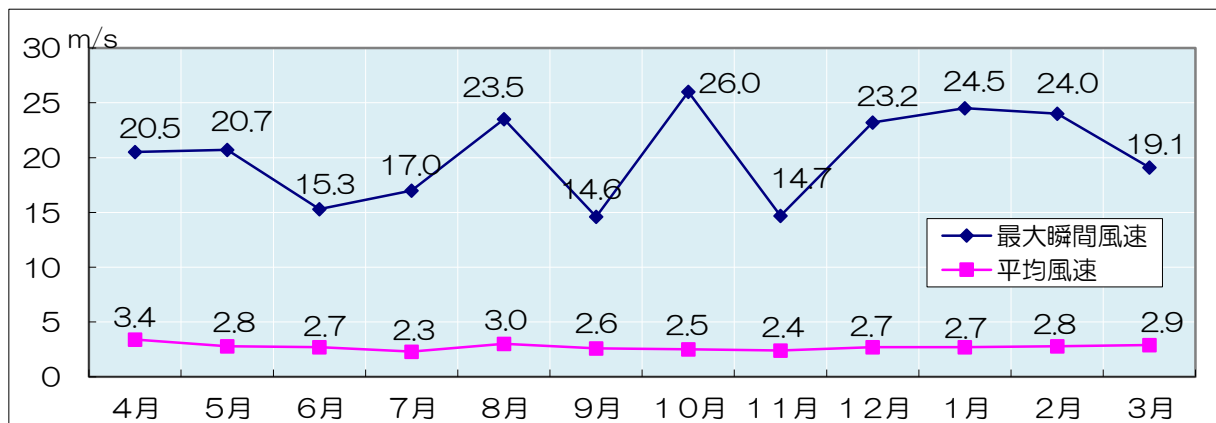
湿度

（令和3年度）



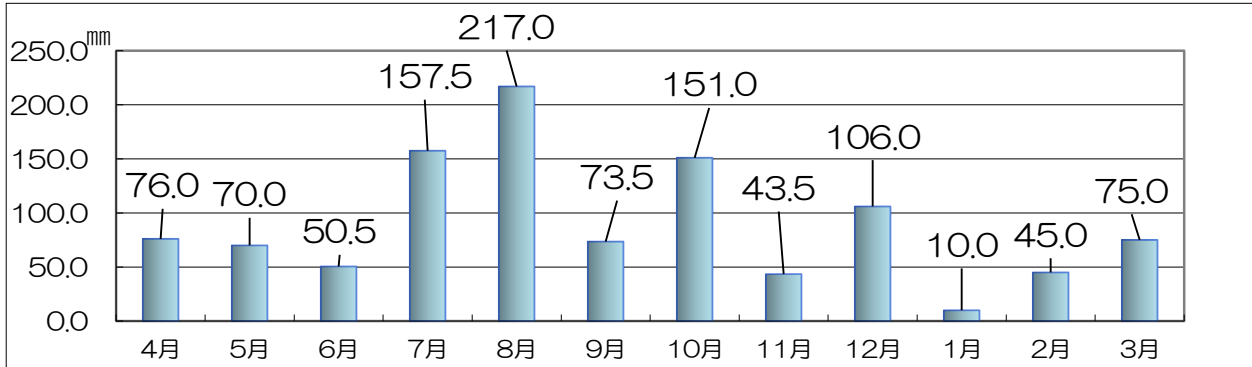
風速

（令和3年度）



降水量

(令和3年度)



特別警報・警報・注意報（水戸地方気象台発表回数）（令和3年度）

		特別警報				警報					注意報										
		暴風	暴風雪	大雨	大雪	暴風	暴風雪	大雨	大雪	洪水	風雪	強風	大雨	大雪	洪水	着雪	乾燥	濃霧	霜	低温	雷
筑西市	4											3					3	2	10		6
	5											4					3	13			12
	6											1						9			11
	7							1				1	3		3			14			10
	8											2	3		2			10			18
	9											1	1					8			8
	10											2	1		1			12	3		5
	11											1					1	8	15		6
	12											4			1		3	6		6	1
	1							1				4		1		1	4	2		11	1
	2											4		2			3			4	5
	3											5					4	10			7
	計	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	32	8	3	7	1	21	94	28	21	90
結城市	4											3	1				3	2	10		6
	5											4					3	13			12
	6											1	1					9			11
	7											1	5		2			14			10
	8											2	2		2			10			18
	9											1						8			8
	10											2	2					12	3		5
	11											1					1	8	15		6
	12											4	1		1		3	6		6	1
	1							1				4		1		1	4	2		11	1
	2											4		2			3			4	5
	3											5					4	10			7
	計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	32	12	3	5	1	21	94	28	21	90
桜川市	4											3					3	2	10		6
	5											4					3	13			12
	6											1						9			11
	7							1				1	6		3			14			10
	8							1				2	4		2			10			18
	9											1	1					8			8
	10											2	1		1			12	3		5
	11											1					1	8	15		6
	12											4	1		1		3	6		6	1
	1							1				4		1		1	4	2		11	1
	2											4		2			3			4	5
	3											5					4	10			7
	計	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	32	13	3	7	1	21	94	28	21	90

予 防 関 係

火災について

筑西広域管内における令和3年度の総出火件数は67件で、前年度と比較して46件の減少です。

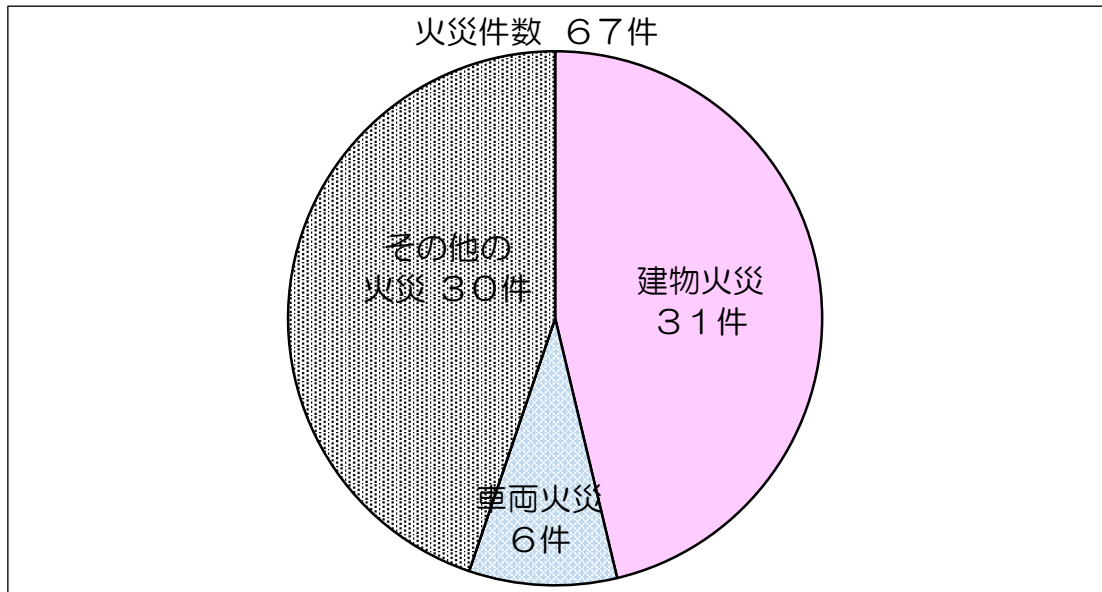
総出火件数中、建物火災は31件発生し全体の約46%です。出火原因別では、放火（放火の疑いを含む）による火災が15件発生し全体の22%、たき火及び火入れによる出火が16件で全体の約24%を占めています。電気が起因する出火は6件発生しています。放火の予防対策としては人が侵入しやすい場所は施錠の管理をきちんと行うこと、照明器具を設置し暗がりを作らないこと、建物の周囲に燃えやすい物を放置しないことを心掛けましょう。

また、放火、たき火や火入れに次いで配線器具など、電気が原因となる火災は例年平均して発生しています。電気は火のように目に見えるエネルギーと違い、つつい使用方法などに気が緩みがちです。電気の取扱いを間違えば火災に至るエネルギーを持っています。再度、使用方法を確認し適正使用に努めましょう。

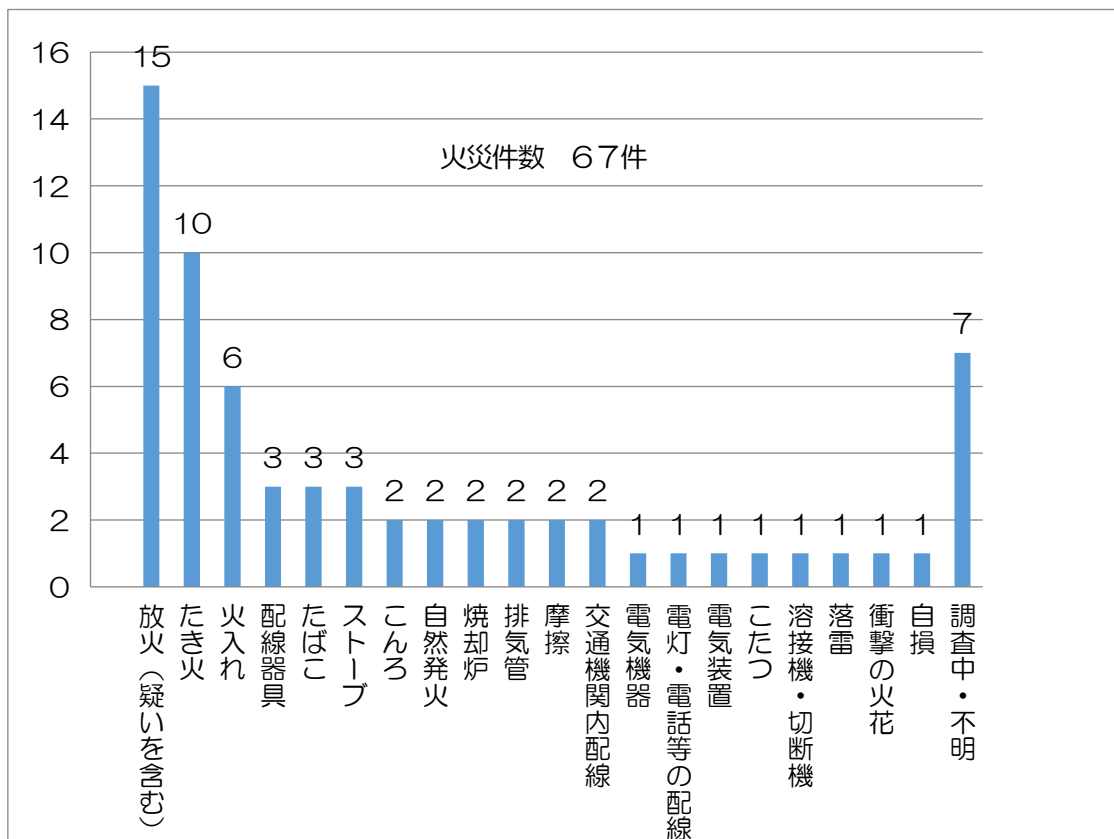
令和3年度における火災による死者は6名（昨年度から3名増加）、負傷者は11名（昨年度から1名増加）となっています。毎年火災により死者及び負傷者が発生しています。

早期に火災を発見し警報音で知らせる住宅用火災警報器等は、早期避難及び、初期火災時の有効な消火につながりますので設置しましょう。また、住宅用火災警報器は設置から10年が経過すると電池や電子部品の寿命により、火災を感知しなくなることがあるためとても危険ですので、10年を目安に取り換えましょう。

火災概要（令和3年度）

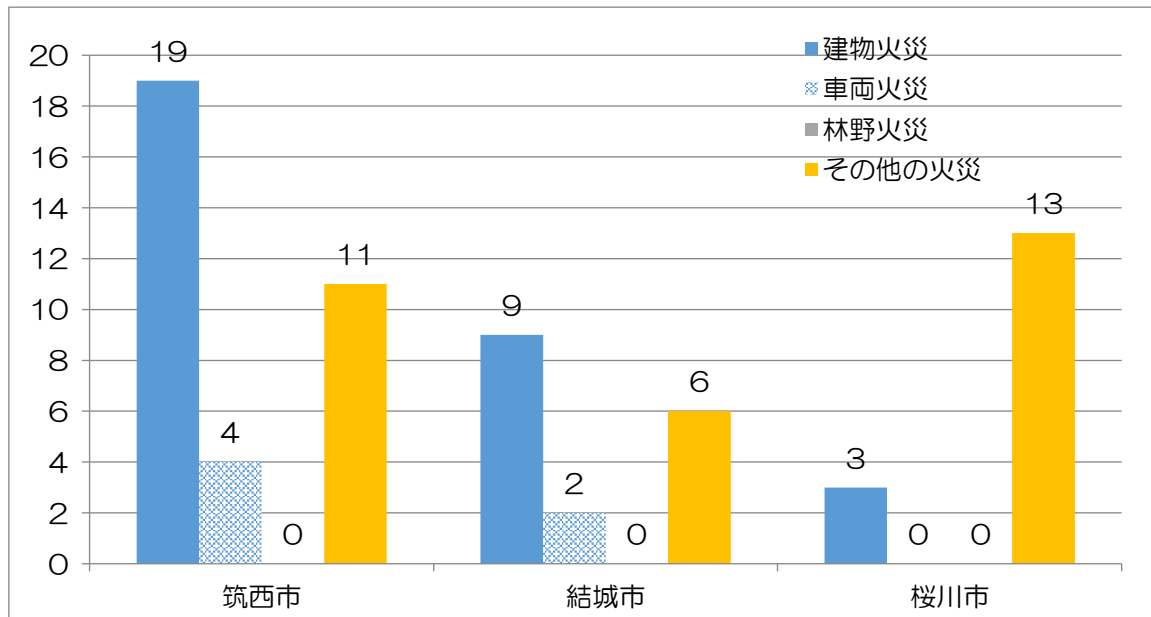


主な出火原因（令和3年度）



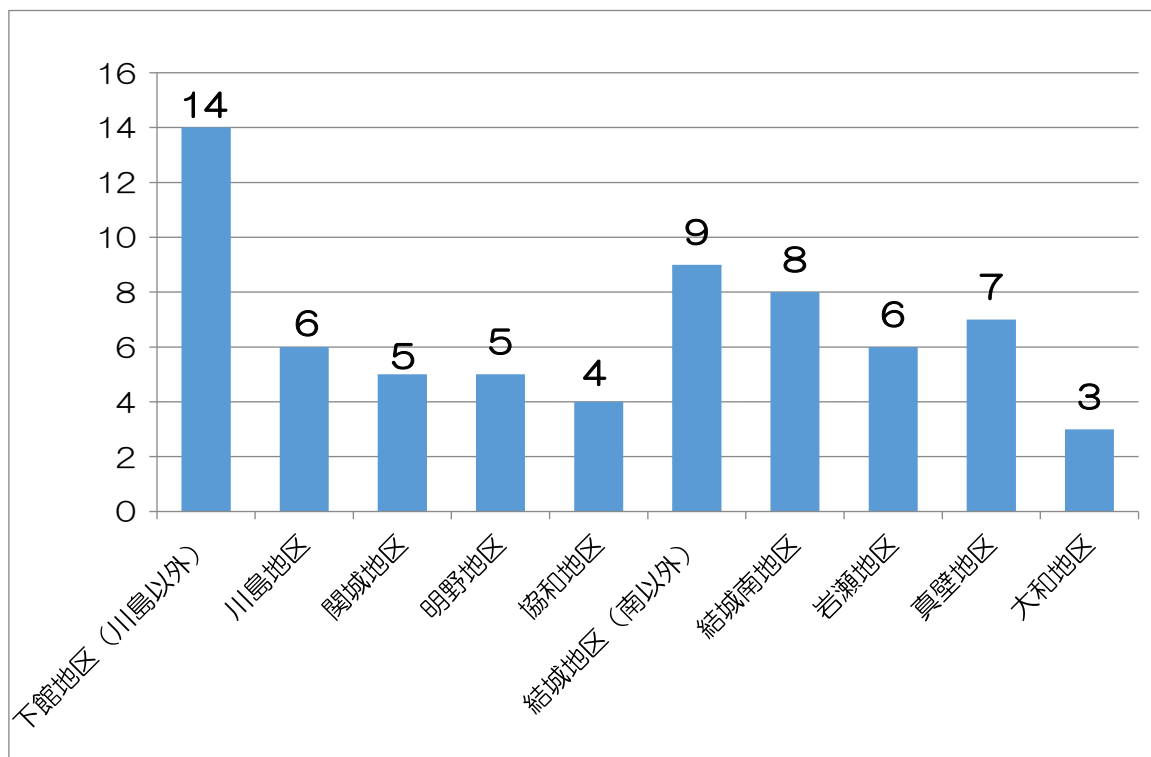
市別火災種別

(令和3年度)



地区別出火件数

(令和3年度)

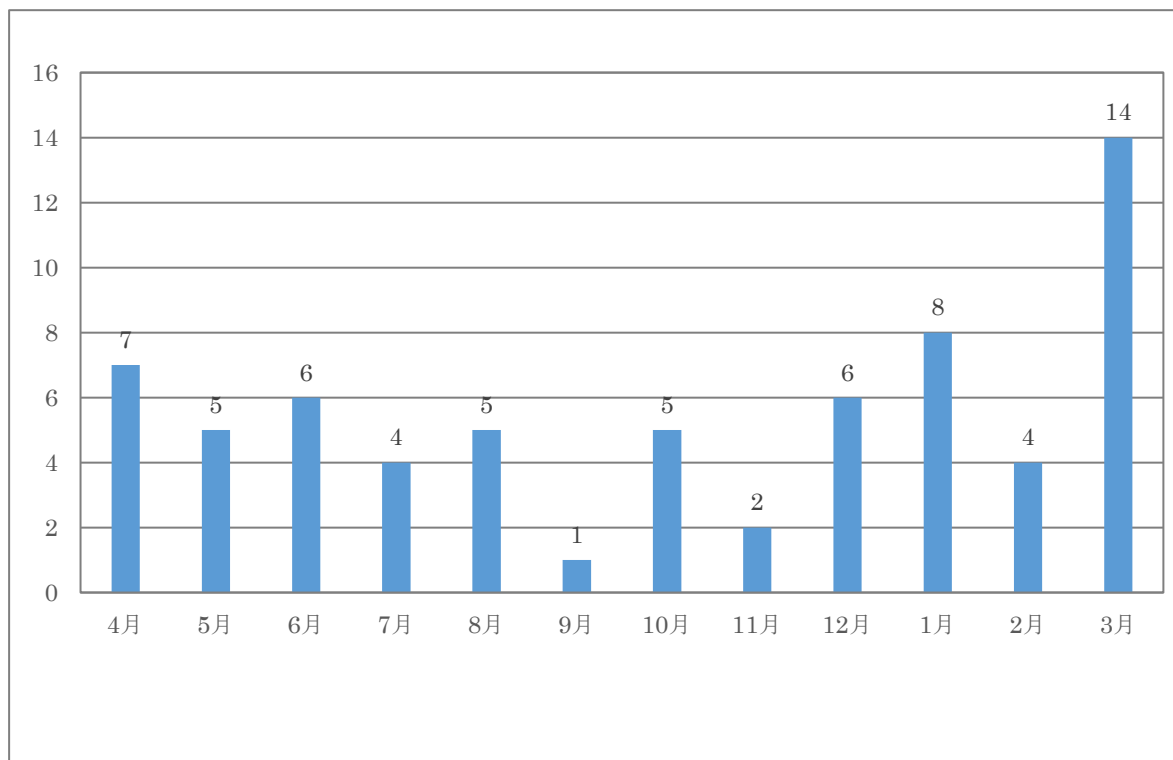


市別火災状況

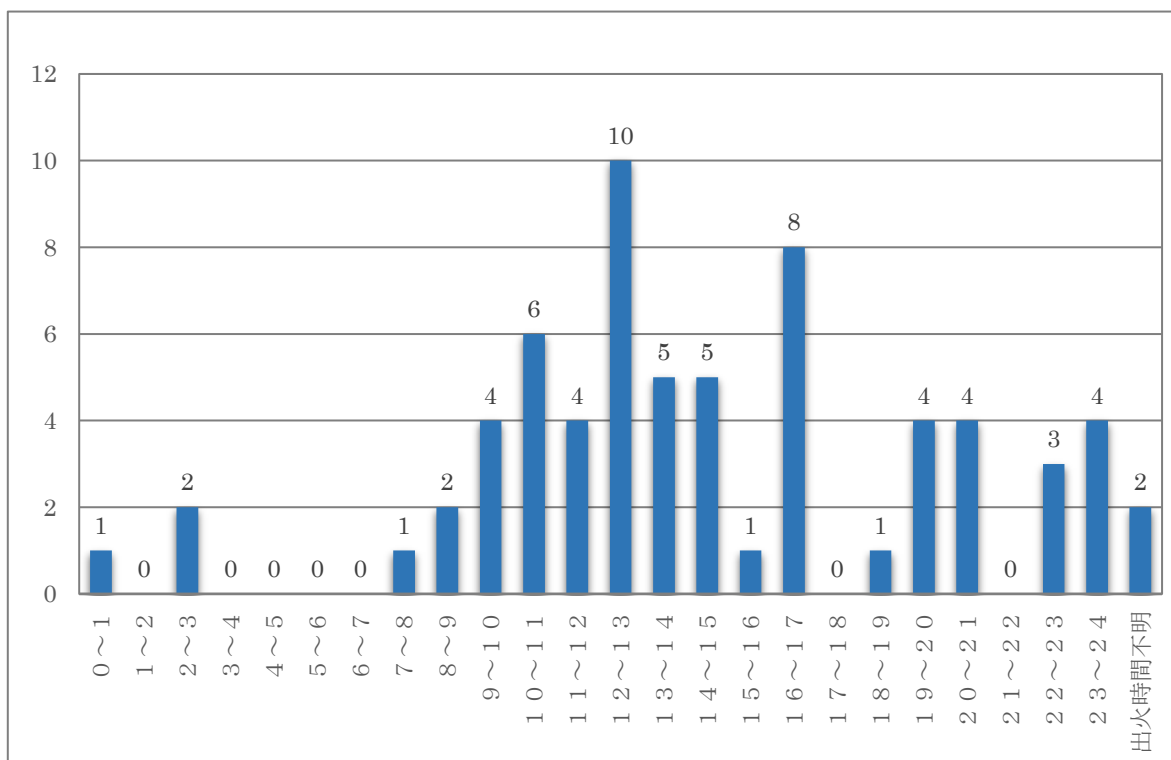
(令和3年度)

種別		市別	単位	計	筑西市	結城市	桜川市
建物焼損棟数	全焼	棟		12	10	2	
	半焼			7	1	5	1
	部分焼			12	4	6	2
	ぼや			18	17	1	
	合計			49	32	14	3
焼損面積	床面積	㎡		1,621	1,002	607	12
	表面積			88	10	52	26
	合計			1,709	1,012	659	38
林野焼損面積		a					
罹災世帯	全損	世帯		10	6	4	
	半損			2		2	
	小損			12	10	2	
	合計			24	16	8	
罹災者数		人		57	40	17	
損害額	建物火災	千円		129,362	53,741	74,605	1,016
	林野火災						
	車両火災			3,697	2,699	998	
	その他の火災			1,488	24	439	1,025
	合計			134,547	56,464	76,042	2,041
死傷者	死者	人		6	5		1
	傷者			11	7	4	
	合計			17	12	4	1

月別出火件数 (令和3年度)



時間別出火件数 (令和3年度)



危険物

危険物は、その性質により第1類から第6類までに区分されています。

このうち石油類を中心とした第4類の危険物が大半を占めており、危険物932施設のうち第4類を貯蔵し又は取扱う施設が893施設あり、95.8%に及んでいます。

これらの施設においては、一度事故が発生すると大規模な被害が生じることが多く、負傷者が発生することもあるため、取扱う人の十分な知識と安全管理への取組が重要となります。

危険物規制対象施設数（令和4年4月1日現在）

区分		施設数	設置許可施設	完成検査済証交付施設
数量別	5 倍以下		299	298
	5 倍を超え 10 倍以下		202	202
	10	// 50 //	239	239
	50	// 50 //	80	80
	100	// 150 //	35	35
	150	// 200 //	27	27
	200	// 1,000 //	48	48
	1,000	// 5,000 //	1	1
	5,000	// 10,000 //	1	1
	10,000 倍を超えるもの			
	合 計		932	931
種別	単独	第 1 類	2	2
		第 2 類	3	3
		第 3 類	1	1
		第 4 類	893	892
		第 5 類	8	8
		第 6 類		
	混 在		25	25
	合 計		932	931

市別危険物施設数

(令和4年4月1日現在)

製造所等別		市別	筑西市	結城市	桜川市	合 計
製造所			9	3	3	15
貯蔵所	屋 内		101	48	24	173
	屋外タンク		104	14	28	146
	屋内タンク		4		5	9
	地下タンク		60	29	24	113
	簡易タンク					
	移動タンク		68	31	11	110
	屋 外		10	3	19	32
取扱所	給 油		99	41	46	186
	第一種販売				1	1
	一 般		90	33	24	147
合 計			545	202	185	932

危険物施設立入検査状況

(令和3年度)

製造所等別		区分	査察件数		査察人員
		施設数	回数	検査割合	延べ
製 造 所		15	1	7%	3
貯蔵所	屋 内	173	14	8%	42
	屋外タンク	146	6	4%	18
	屋内タンク	9	1	11%	3
	地下タンク	113	14	12%	42
	簡易タンク				
	移動タンク	110	35	32%	105
	屋 外	32	2	6%	6
小 計		583	72	12%	216
取扱所	給 油	186	62	33%	186
	第一種販売	1			
	一 般	147	13	9%	39
小 計		334	75	22%	225
合 計		932	148	16%	444

防火対象物

消防法では、建築物など火災予防行政の主たる対象となるものを「防火対象物」と定義しています。そのうち消防法施行令別表第一に掲げる防火対象物については、その用途や規模等に応じて、(1)項から(20)項までに分類されており、用途区分、構造、面積、階層、収容人員などの各基準に該当すると、火災予防のための防火管理者の選任義務などの人的体制の整備や消防用設備等の設置、防災物品の使用などが義務付けられています。

そのため、消防職員が定期的に立入検査を行い、消防法令違反を発見した時は速やかに是正指導を行い、火災発生危険及びこれに伴う人命危険を予防するべく違反処理にあたっています。

建築確認同意事務処理件数 (令和3年度)

	新 築	増 築	改 築	その他	合 計
筑西市	99	3		1	103
結城市	39	6	1		46
桜川市	26	1		4	31
合 計	164	10	1	5	180

火災予防条例等に基づく届出状況 (令和3年度)

項 目	市 別	合計	筑西市	結城市	桜川市
圧縮アセチレンガス		7	7	0	0
液化石油ガス貯蔵取扱		69	23	44	2
喫煙・裸火使用、危険物品持込		19	4	11	4
防火対象物使用開始		136	55	50	31
炉、かまど、ボイラー乾燥設備		44	17	9	18
ネオン管灯設備		0	0	0	0
発電、変電、蓄電池設備		95	42	24	29
水素ガス充てん気球		0	0	0	0
火災とまぎらわしい行為の届出		317	161	40	116
煙火打ち上げ		89	36	12	41
催物開催		6	5	1	0
水道断減水		0	0	0	0
道路工事		460	219	195	46
少量危険物貯蔵取扱		37	16	5	16
指定可燃物貯蔵取扱		8	5	3	0
合 計		1287	590	394	303

中・高層建築物状況

(令和4年4月1日現在)

防火対象物			棟数	階 数						
				4	5	6	7	8	9	10
1	イ	劇場・映画館・演芸場等								
	□	公会堂・集会場	1	1						
2	イ	キャバレー・ナイトクラブ等								
	□	遊技場・ダンスホール								
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗等								
	ニ	カラオケボックス等								
3	イ	待合・料理店類								
	□	飲食店	2	2						
4		百貨店・マーケット・店舗等	1	1						
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所	12	5	1	2	2	1		1
	□	寄宿舍・下宿・共同住宅	41	17	22			1	1	
6	イ	病院・診療所・助産所	10	6	2	2				
	□	社会福祉施設（入所施設）	3	2	1					
	ハ	社会福祉施設（通所施設）	2	2						
	ニ	幼稚園・盲学校・養護学校等								
7		小・中・高・大・各種学校類	27	26	1					
8		図書館・博物館類								
9	イ	公衆浴場のうち熱気浴場類								
	□	イ以外の公衆浴場								
10		車両の停車場等								
11		神社・寺院・教会類	1	1						
12	イ	工場・作業場	15	11	2	2				
	□	映画・テレビスタジオ								
13	イ	自動車車庫・駐車場	1			1				
	□	飛行機の格納庫等								
14		倉庫	1	1						
15		前各項に該当しない事業場	20	11	7	2				
16	イ	特定の複合用途防火対象物	29	18	8	1	1			1
	□	イ以外の複合用途防火対象物	6	4	1	1				
17		重要文化財・重要民族資料館								
合 計			172	108	45	11	3	2	1	2

防火対象物数

(令和4年4月1日現在)

市 別			筑西市	結城市	桜川市	合 計
			区 分			
1	イ	劇場・映画館・演芸場等	1	2	1	4
	ロ	公会堂・集会場	37	13	19	69
2	イ	キャバレー・ナイトクラブ等				
	ロ	遊技場・ダンスホール	9	4	3	16
	ハ	性風俗関連特殊営業店舗等				
	ニ	カラオケボックス等	4	3	2	9
3	イ	待合・料理店等	6	5	3	14
	ロ	飲食店	66	25	21	112
4		百貨店・マーケット・店舗等	176	85	57	318
5	イ	旅館・ホテル・宿泊所等	26	10	6	42
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	329	257	86	672
6	イ	病院・診療所・助産所	79	28	20	127
	ロ	社会福祉施設（入所施設）	50	23	30	103
	ハ	社会福祉施設（通所施設）・保育所	107	42	27	176
	ニ	幼稚園・盲学校・養護学校等	15	8	5	28
7		小・中・高・大・各種学校等	124	60	61	245
8		図書館・博物館等	6		2	8
9	イ	公衆浴場のうち熱気浴場等				
	ロ	イ以外の公衆浴場				
10		車両の停車場等	1	1		2
11		神社・寺院・教会等	22	23	10	55
12	イ	工場・作業場	619	336	392	1,347
	ロ	映画・テレビスタジオ				
13	イ	自動車車庫・駐車場	40	7	4	51
	ロ	飛行機の格納庫等		2		2
14		倉庫	436	187	167	790
15		前各項に該当しない事業場	526	210	183	919
16	イ	特定の複合用途防火対象物	144	54	39	237
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	47	32	22	101
17		重要文化財・重要民俗文化財等	22	9	23	54
計			2,892	1,426	1,183	5,501

広報活動実施状況

（令和3年度）

種 別 \ 署 別	計	筑西消防署	川島分署	関城分署	明野分署	協和分署	結城消防署	桜川消防署	真壁分署	大和分署
防火映画会										
避難訓練等	22		2	1	2	2	14	1		
署所見学	9		4		1	1	2	1		
広報設備による広報	21	3	3	3	3	3	2	3		1
広報用印刷物の配布	62	6	6	6	6	6	6	7	12	7
合 計（回）	114	9	15	10	12	12	24	12	12	8

※ 消防本部対応防災センター見学

令和3年4月1日～令和4年3月31日・・・・・・23件

甲種防火管理者（新規・再）資格取得講習

（令和3年度）

実施年月日	受講者数	修了証交付数
令和3年10月13日・14日（新規）	115	115
令和3年10月13日（再講習）	34	34

民間防火組織等外郭団体結成状況

1 防火クラブ

(令和4年4月1日現在)

	女性防火クラブ		幼年消防クラブ		少年消防クラブ	
筑西市	1 団体	32 名	11 団体	321 名	11 団体	421 名
結城市	1 団体	31 名	7 団体	150 名	1 団体	12 名
桜川市	1 団体	24 名	4 団体	538 名	5 団体	152 名
小 計	3 団体	87 名	22 団体	1009 名	17 団体	585 名
合 計	42 クラブ				1,681 人	

2 危険物安全協会

(令和4年4月1日現在)

(1) 筑西市危険物安全協会	会員事業所数	169
(2) 結城市危険物安全協会	会員事業所数	101
(3) 桜川市危険物安全協会	会員事業所数	58
合 計		328

3 防火管理協議会

(令和4年4月1日現在)

筑西広域防火管理協議会	会員事業所数	420
-------------	--------	-----

令和4年度 筑西広域消防本部業務重点施策

「全員の叡知を結集して強い消防に変革する」

社会構造の変化に対応するための強い消防を目指す我々筑西広域消防は、圏域住民の期待と信頼に応えるべく職員一人ひとりが組織の掲げる計画の主旨を深く理解し、旺盛な士気と厳正な規律のもと強力に推進し、消防力を最大限に発揮することで安全で安心な圏域を築く。

- 1 消防力の安定化を目指した長期整備計画策定と新庁舎建設事業の推進
- 2 職員のワークライフバランス実現を可能とする職場環境の構築
- 3 大規模・複雑多様化する災害等に対応する専門部隊の強化と安全管理意識の高揚
- 4 救急搬送体制の強化と救急業務高度化の推進
- 5 火災予防対策の強化と予防要員の計画的な配置と育成

消 防 本 部 ・ 署 (分 署) 所 在 地

署 ・ 所 名	所 在 地	電 話 番 号
消 防 本 部	〒308-0803 筑西市直井 1076 番地	(代 表) 0296-20-0119 総 務 課 0296-24-4552 警 防 課 0296-24-4104 管理統制課 0296-20-0188 予 防 課 0296-24-4589 テレホンサービス 0296-25-0111 F A X 0296-24-5444
筑西消防署		0296-24-4504 F A X 0296-24-0700
筑西消防署 川島分署	〒308-0846 筑西市布川 1249 番地 6	0296-28-0119 F A X 0296-28-3388
筑西消防署 関城分署	〒308-0129 筑西市上野 1045 番地 1	0296-37-2444 F A X 0296-37-6144
筑西消防署 明野分署	〒300-4515 筑西市倉持 1123 番地 1	0296-52-1581 F A X 0296-52-2789
筑西消防署 協和分署	〒309-1107 筑西市門井 1976 番地 1	0296-57-3479 F A X 0296-57-4444
結城消防署	〒307-0004 結城市みどり町二丁目 3 番地	0296-32-5145 F A X 0296-32-7667
結城消防署 結城南出張所	〒307-0031 結城市大字大木 1138 番地	0296-35-0930 F A X 0296-35-4015
桜川消防署	〒309-1213 桜川市西桜川二丁目 29 番地	0296-75-3592 F A X 0296-76-1206
桜川消防署 真壁分署	〒300-4406 桜川市真壁町山尾 793 番地	0296-55-2403 F A X 0296-54-0758
桜川消防署 大和分署	〒309-1242 桜川市羽田 1000 番地	0296-58-6851 F A X 0296-58-6852